

【東洋文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
1301001	系共通科目(国語学)	講義	2-4	4	通年	水5	田中 草大		東洋文化学系1
1303001	系共通科目(国文学)	講義	2-4	4	通年	金1	金光 桂子		東洋文化学系2
1402001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	前期	木1	池田 巧		東洋文化学系3
1404001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	後期	木1	池田 巧		東洋文化学系4
1406001	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	前期	水5	緑川 英樹		東洋文化学系5
1408001	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	後期	水5	緑川 英樹		東洋文化学系6
1502001	系共通科目(中国哲学史)	講義	1-4	2	前期	金4	宇佐美 文理		東洋文化学系7
1504001	系共通科目(中国哲学史)	講義	1-4	2	後期	金4	宇佐美 文理		東洋文化学系8
1602001	系共通科目(オーストラリア語学オーストラリア文学)	講義	1-4	2	前期	月3	天野 恭子		東洋文化学系9
1604001	系共通科目(オーストラリア語学オーストラリア文学)	講義	1-4	2	後期	月3	横地 優子		東洋文化学系10
1702001	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	前期	水4	VASUDEVA, Somdev		東洋文化学系11
1704001	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	後期	水4	VASUDEVA, Somdev		東洋文化学系12
1802001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	前期	月2	宮崎 泉		東洋文化学系13
1804001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	後期	月2	宮崎 泉		東洋文化学系14
1330001	国語学国文学	特殊講義	3-4	4	通年	月2	河村 瑛子		東洋文化学系15
1330002	国語学国文学	特殊講義	2-4	4	通年	火2	池田 恭哉		東洋文化学系16
1331001	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	須田 千里		東洋文化学系17
1331002	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	須田 千里		東洋文化学系18
1331003	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	佐野 宏		東洋文化学系19
1331004	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	佐野 宏		東洋文化学系20
1331005	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	長谷川 千尋		東洋文化学系21
1331006	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	長谷川 千尋		東洋文化学系22
1331009	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	橋本 行洋		東洋文化学系23
1331010	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	橋本 行洋		東洋文化学系24
1331011	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	奥野 久美子		東洋文化学系25
1331012	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	奥野 久美子		東洋文化学系26
1331013	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	豊島 正之		東洋文化学系27
1340002	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	火3	金光 桂子		東洋文化学系28
1340003	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	月4	河村 瑛子		東洋文化学系29
1340004	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	金3	田中 草大		東洋文化学系30
1341001	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	火4	緑川 英樹		東洋文化学系31
1341002	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	火4	緑川 英樹		東洋文化学系32
1341003	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	水2	本井 牧子		東洋文化学系33
1341004	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	水2	本井 牧子		東洋文化学系34
1350001	国語学国文学	講読	2-4	4	通年	月3	小林 雄一		東洋文化学系35
1345001	国語学国文学	卒論演習	4	4	通年	月1	金光 桂子,河村 瑛子,田中 草大		東洋文化学系36
1431001	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	永田 知之		東洋文化学系37
1431002	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	永田 知之		東洋文化学系38
1431003	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	道坂 昭廣		東洋文化学系39
1431004	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	道坂 昭廣		東洋文化学系40
1431005	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	大竹 昌巳		東洋文化学系41
1431006	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	大竹 昌巳		東洋文化学系42
1431007	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	金4	緑川 英樹		東洋文化学系43
1431008	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	野原 将揮		東洋文化学系44
1431009	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水1	赤松 紀彦		東洋文化学系45
1431010	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	赤松 紀彦		東洋文化学系46
1431012	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	大木 康		東洋文化学系47
1447001	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	水3	成田 健太郎	語学演習	東洋文化学系48
1447002	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	水3	成田 健太郎	語学演習	東洋文化学系49
1447003	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	木2	木津 祐子	語学演習	東洋文化学系50
1447004	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	木2	木津 祐子	語学演習	東洋文化学系51
1449001	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	火4	緑川 英樹	文学演習	東洋文化学系52
1449002	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	火4	緑川 英樹	文学演習	東洋文化学系53
1451001	中国語学中国文学	講読	2-4	2	前期	月5	成田 健太郎		東洋文化学系54
1451002	中国語学中国文学	講読	2-4	2	後期	月5	成田 健太郎		東洋文化学系55
1464001	中国語学中国文学	外国語実習	4	1	前期	木4	王 宜瑗		東洋文化学系56
1464002	中国語学中国文学	外国語実習	4	1	後期	木4	王 宜瑗		東洋文化学系57
1464003	中国語学中国文学	外国語実習	3-4	1	前期	木3	王 宜瑗		東洋文化学系58
1464004	中国語学中国文学	外国語実習	3-4	1	後期	木3	王 宜瑗		東洋文化学系59
1445001	中国語学中国文学	卒論演習	4	2	通年	水2	木津 祐子,緑川 英樹,成田 健太郎		東洋文化学系60
1530002	中国哲学史	特殊講義	3-4	4	通年	水1	池田 恭哉		東洋文化学系61
1531001	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	集中	工藤卓司		東洋文化学系62
1531002	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	火1	永田 知之		東洋文化学系63
1531003	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	火1	永田 知之		東洋文化学系64
1531004	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系65
1531005	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系66
1531006	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	火4	船山 徹		東洋文化学系67
1531007	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	火4	船山 徹		東洋文化学系68
1540001	中国哲学史	演習	3-4	4	通年	金5	宇佐美 文理		東洋文化学系69
1540002	中国哲学史	演習	3-4	4	通年	月2	池田 恭哉		東洋文化学系70
1541001	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	金3	吉本 道雅		東洋文化学系71
1541002	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	金3	吉本 道雅		東洋文化学系72
1541003	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	月3	古勝 隆一		東洋文化学系73
1541004	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	月3	古勝 隆一		東洋文化学系74
1541005	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	金2	中 純夫		東洋文化学系75

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
1541006	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	金2	中 純夫		東洋文化学系76
1550001	中国哲学史	講読	2-4	4	通年	火2	池田 恭哉		東洋文化学系77
1633001	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	横地 優子		東洋文化学系78
1633002	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	VASUDEVA, Somdev		東洋文化学系79
1633003	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	Klevanov Andrey		東洋文化学系80
1633005	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	天野 恭子		東洋文化学系81
1633006	インド古典学	特殊講義	2-4	2	前期	火3	福山泰子		東洋文化学系82
1633007	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		東洋文化学系83
1633008	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		東洋文化学系84
1633010	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	山畑倫志		東洋文化学系85
1643001	インド古典学	演習	2-4	4	前期	火5	Klevanov Andrey		東洋文化学系86
1644003	インド古典学	演習	3-4	2	後期	金3	横地 優子		東洋文化学系87
1644004	インド古典学	演習	3-4	2	前期	水5	VASUDEVA, Somdev		東洋文化学系88
1644005	インド古典学	演習	2-4	2	前期	木4	山口 周子		東洋文化学系89
1644006	インド古典学	演習	2-4	2	後期	木4	芳原 綾子		東洋文化学系90
1644007	インド古典学	演習	3-4	2	後期	水2	天野 恭子		東洋文化学系91
1644009	インド古典学	演習	3-4	2	前期	火1	横地 優子,VASUDEVA, Somdev,Klevanov Andrey		東洋文化学系92
1644010	インド古典学	演習	3-4	2	後期	火1	横地 優子,VASUDEVA, Somdev,未定		東洋文化学系93
1653001	インド古典学	講読	2-4	2	前期	月4	横地 優子		東洋文化学系94
1653002	インド古典学	講読	2-4	2	後期	月4	天野 恭子		東洋文化学系95
1653003	インド古典学	講読	3-4	2	前期	木3	Klevanov Andrey		東洋文化学系96
1653006	インド古典学	講読	3-4	2	後期	火2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		東洋文化学系97
9616001	インド古典学	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	東洋文化学系98
9617001	インド古典学	語学	1-4	8	通年	月5,木5	Klevanov Andrey	学部共通科目	東洋文化学系99
9633001	インド古典学	語学	1-4	4	通年	金5	小松 久恵	学部共通科目	東洋文化学系100
9659001	インド古典学	語学	2-4	2	前期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	東洋文化学系101
9660001	インド古典学	語学	2-4	2	後期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	東洋文化学系102
1831001	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	宮崎 泉		東洋文化学系103
1831002	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	宮崎 泉		東洋文化学系104
1831003	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	船山 徹		東洋文化学系105
1831004	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	船山 徹		東洋文化学系106
1831005	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	木5	室寺 義仁		東洋文化学系107
1831006	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	木5	室寺 義仁		東洋文化学系108
1831010	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		東洋文化学系109
1831007	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		東洋文化学系110
1831008	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系111
1831009	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系112
1841001	仏教学	演習	3-4	2	前期	月4	宮崎 泉		東洋文化学系113
1841002	仏教学	演習	3-4	2	後期	火3	宮崎 泉		東洋文化学系114
1841003	仏教学	演習	3-4	2	前期	集中	加納 和雄		東洋文化学系115
1841004	仏教学	演習	3-4	2	前期	水4	熊谷 誠慈		東洋文化学系116
1841005	仏教学	演習	3-4	2	後期	水4	熊谷 誠慈		東洋文化学系117
1841006	仏教学	演習	3-4	2	前期	火2	佐藤 直実		東洋文化学系118
1841007	仏教学	演習	3-4	2	後期	月5	志賀 浄邦		東洋文化学系119
1841008	仏教学	演習	2-4	2	前期	木4	山口 周子		東洋文化学系120
1841009	仏教学	演習	2-4	2	後期	木4	芳原 綾子		東洋文化学系121
1851001	仏教学	講読I	3-4	2	前期	木3	Klevanov Andrey		東洋文化学系122
1853002	仏教学	講読II	3-4	2	後期	火2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		東洋文化学系123
9628001	仏教学	語学	2-4	2	前期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	東洋文化学系124
9629001	仏教学	語学	2-4	2	後期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	東洋文化学系125
9630001	仏教学	語学	3-4	2	前期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	東洋文化学系126
9630002	仏教学	語学	3-4	2	後期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	東洋文化学系127

東洋文化学系1

科目ナンバリング		U-LET10 21301 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国語学)(講義) Japanese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本語の歴史はどのように解明されるか									
【授業の概要・目的】											
<p>長年の研究の結果、日本語の歴史（すなわち、日本語が過去にどのような姿であり、それがいかに変化して現代の姿となったか）については多くのことが分かっています。しかし、それらはいかにして解明されてきたのでしょうか。例えば、チ・ツ・ヂ・ヅは室町時代ごろまでは（現在のよう な[chi] [tsu] [ji] [zu]ではなく）[ti] [tu] [di] [du]であったと推定されていますが、録音が残っていない のにどうしてそんなことが分かるのでしょうか。</p> <p>この授業では、「どのような資料や方法によって解明されてきたか」という観点から、日本語の 歴史を概説します。</p>											
【到達目標】											
<p>日本語の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような方法や資料によって解明されてきたか。</p> <p>(2) それらによって、どのようなことが解明されてきたか。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>01. 導入</p> <p>02. 日本語研究の歴史 概説</p> <p>03. 音韻・音声 どのように過去の姿を探るか / 音韻史概観</p> <p>04. 音韻・音声 音節数の変化、八行転呼音</p> <p>05. 音韻・音声 上代特殊仮名遣い</p> <p>06. 音韻・音声 開合と四つ仮名、アクセント</p> <p>07. 音韻・音声 論文講読</p> <p>08. 文字・表記 どのように過去の姿を探るか / 表記史概観</p> <p>09. 文字・表記 平仮名の成立・片仮名の成立</p> <p>10. 文字・表記 万葉仮名の用法</p> <p>11. 文字・表記 漢字による日本語表記の確立</p> <p>12. 文字・表記 漢字仮名交じり文の成立</p> <p>13. 文字・表記 論文講読</p> <p>14. 期末試験 1・解説</p> <p>15. 前期のまとめ</p> <p>* * * * *</p> <p>16. 文法 どのように過去の姿を探るか / 文法史概観</p> <p>17. 文法 古代語と近代語 係り結び</p> <p>18. 文法 同 動詞の活用変化</p>											
----- 系共通科目(国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国語学)(講義)(2)

19. 文法 同 主格助詞の成立
20. 文法 同 助動詞の変化
21. 文法 論文講読
22. 語史・語彙 どのように過去の姿を探るか / 語彙史概観
23. 語史・語彙 論文講読
24. 語史・語彙 論文講読
25. 文体 どのように過去の姿を探るか / 文体史概観
26. 論文講読 (文体、位相語、待遇表現など)
27. 論文講読 (文体、位相語、待遇表現など)
28. 論文講読 (文体、位相語、待遇表現など)
29. 期末試験 2 ・解説
30. 後期のまとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

2度の期末試験による (各50%)。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業中に指示する参考文献を読むこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系2

科目ナンバリング		U-LET10 21303 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国文学)(講義) Japanese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		国文学入門									
【授業の概要・目的】											
『伊勢物語』が後世どのように受容されたかを軸として、日本の古典文学史を概観する。各時代における『伊勢物語』への理解・評価のあり方を通してその時代の文学観を知り、『伊勢物語』の影響を受けた作品を読むことでその時代・ジャンルの文学の特色を考える。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな時代とジャンルの文学作品を読むことにより、古典文学史の流れを実際の作品に即して理解する。 ・一つの古典作品が時代によって異なる解釈・評価をされてきたことを知り、古典が担ってきた役割について考察できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマを取り上げる予定。ただし進捗状況によって変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 『伊勢物語』前史 3. 『源氏物語』における受容 若紫巻 4. 『源氏物語』における受容 総角巻 5. 『伊勢物語』の本文 九十九段 6. 『伊勢物語』の本文 歌学書の記述より 7. 『伊勢物語』の本文 六十九段 8. 和歌における受容 新古今和歌集 9. 和歌における受容 藤原俊成 10. 和歌における受容 藤原定家の歌論 11. 古注の世界 二条の後 12. 古注の世界 東下り 13. 古注の世界 中世の文学観 14. 謡曲の中の業平 「井筒」 15. 謡曲の中の業平 世阿弥の能楽論 16. 連歌師による注釈 連歌の中の『伊勢物語』 17. 連歌師による注釈 宗祇の注釈 18. 女訓の中の『伊勢物語』 『女郎花物語』 19. 女訓の中の『伊勢物語』 『伊勢源氏十二番女合』 20. 業平と小町 古注 21. 業平と小町 室町物語 22. 近世の受容 『伊勢物語』の大衆化 23. 近世の受容 『好色一代男』 24. 近世演劇 世話物 25. 近世演劇 時代物 											
----- 系共通科目(国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国文学)(講義)(2)

- 26.近世演劇 『井筒業平河内通』
27.国学者による注釈
28.上田秋成の寓言論
29.レポート作成準備
30.フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業中に課す課題・コメントなど。20点）および期末レポート（80点）による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げた作品や関連資料のうち、少しでも興味をもったものは自分で読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系3

科目ナンバリング		U-LET11 21402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 池田 巧			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説1(文法)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上が、現代中国語の文法について、言語史的な視点をまじえつつ、基礎知識を把握することを目標とする。											
【到達目標】											
この科目は現代中国語(普通話)の文法入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)現代中国語(普通話)の文法構造、(2)中古中国語文法から現代中国語文法への史的発展に関する基礎知識を習得することが期待される。あわせて古典中国語文法の基礎にも留意する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに：中国語とはどのような言語か 2.現代中国語の表記法(簡体字と繁体字、ピンイン) 3.普通話と方言(1) 4.普通話と方言(2) 5.文法の復習 6.品詞分類、語構成(接頭辞、接尾辞、重ね型) 7.句と文、否定、疑問 8.名詞、代名詞、量詞 9.動詞、形容詞、副詞(1) 10.動詞、形容詞、副詞(2) 11.時制とアスペクト 12.補語と目的語(1) 13.補語と目的語(2) 14.ヴォイス(受身、使役、「把」構文) 15.連動文と前置詞 											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点】											
授業内レポート(70%)、平常点(30%)。きちんと授業に出席し、積極的に発言すること。											
-----系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

池田 巧 『中国語のしくみ《新版》』(白水社) ISBN:978-4560086636

三宅登之 『中級中国語 読みとく文法』(白帝社) ISBN:978-4560085875

太田辰夫 『中国語歴史文法』(朋友書店) ISBN:978-4892811326 (1958年江南書院初版本の復刊)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献に関しては、あらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説I」および「中国語学概説II」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系4

科目ナンバリング		U-LET11 21404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 池田 巧			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説 2 (漢字史と中国語音韻史)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上が、漢字の歴史と中国語音韻史について、基礎知識を把握することを目標とする。											
【到達目標】											
この科目は漢字史および中国語音韻史の入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)漢字の構造、(2)中国語音韻史に関する基礎知識を習得することが期待される。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、中国語研究史 2. 現代中国語の音韻 (1) 普通話 3. 現代中国語の音韻 (2) 方言の多様性 4. 現代中国語の音韻 (3) 日本漢字音との関わり 5. 中古中国語の音韻 (1) 韻書と反切 6. 中古中国語の音韻 (2) 声調と声母 7. 中古中国語の音韻 (3) 韻母 8. 中古中国語の音韻 (4) 等韻図 9. 古代中国語学 (小学) の基礎 (1) 漢字の形 10. 古代中国語学 (小学) の基礎 (2) 漢字の義 11. これまでの復習 12. 周辺諸地域への漢字の伝播 13. 日本語と中国語：接触の歴史 (日本から見た中国) 14. 日本語と中国語：接触の歴史 (中国から見た日本) 15. 総括討論 											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点】											
授業内レポート (70%)、平常点 (30%) きちんと授業に出席し、積極的に発言すること。											
----- 系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

頼惟勤 『中国古典を読むために 中国語学史講義』(大修館書店) ISBN:978-4469231243

Jerry Norman 『Chinese』(Cambridge University Press) ISBN:978-0521296533

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献に関しては、次回までにあらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説I」および「中国語学概説II」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系5

科目ナンバリング		U-LET11 21406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、中国古典文学の代表的な作品・作家について、特に六朝・唐代の小説を中心に包括的な知識を身につけることにある。国語科教職科目でもあるため、高校の「漢文」教科書に収録されている作品を多くあつかうが、むしろそれを「外国語文学」もしくは「世界文学」として相対化する視点を導入して考察を深めたい。											
【到達目標】											
六朝・唐代の小説を主とした中国の古典文学に関する基本事項を理解したうえで、関連する研究成果を読み込み、課題（レポート）に対して自主的にとりくむ能力を養う。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のとおり講義を進める。ただし講義の進捗度、受講者の理解度に応じて、順序や回数を変更することがある。											
第1回 中国の「小説」とその起源											
第2回 「古小説」と歴史物語（1）											
第3回 「古小説」と歴史物語（2）											
第4回 魏晋の名士と『世説新語』（1）											
第5回 魏晋の名士と『世説新語』（2）											
第6回 六朝時代の幽霊話（1）											
第7回 六朝時代の幽霊話（2）											
第8回 志怪から伝奇へ（1）											
第9回 志怪から伝奇へ（2）											
第10回 立身出世を夢みて（1）											
第11回 立身出世を夢みて（2）											
第12回 唐代伝奇の翻案（1）											
第13回 唐代伝奇の翻案（2）											
第14回 唐代伝奇の翻案（3）											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小レポート（50％）および期末レポート（50％）の成績による。											
【教科書】											
ハンドアウトを配布する。											
----- 系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

竹田晃 『中国小説史入門』 (岩波書店、2002年) ISBN:4-00-026035-9

[授業外学修(予習・復習)等]

各单元ごとに「参考文献」を告知するので、それによって関連図書・論文を適宜読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系6

科目ナンバリング		U-LET11 21408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、中国古典文学の代表的な作品・作家について、特に唐代以前の韻文作品を中心に包括的な知識を身につけることにある。国語科教職科目でもあるため、高校の「漢文」教科書に収録されている作品を多くあつかうが、むしろそれを「外国語文学」もしくは「世界文学」として相対化する視点を導入して考察を深めたい。</p>											
【到達目標】											
<p>韻文を主とした中国古典文学に関する基本事項を理解したうえで、関連する研究成果を読みこみ、課題（レポート）に対して自主的にとりくむ能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のとおり講義を進める。ただし講義の進捗度、受講者の理解度に応じて、順序や回数を変更することがある。</p> <p>第1回 「中国文学史」とは何か 第2回 中国最古の歌謡集『詩経』（1） 第3回 中国最古の歌謡集『詩経』（2） 第4回 悲劇の英雄屈原と『楚辞』（1） 第5回 悲劇の英雄屈原と『楚辞』（2） 第6回 漢賦の盛行と展開 第7回 五言詩の成立 第8回 曹氏父子と建安の文学 第9回 「古今隠逸詩人の宗」陶淵明の文学（1） 第10回 「古今隠逸詩人の宗」陶淵明の文学（2） 第11回 謝靈運と山水美の発見 第12回 楽府文学史における鮑照の位置 第13回 六朝修辞主義文学の爛熟 第14回 『文選』と『玉台新詠』 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小レポート（50％）および期末レポート（50％）の成績による。											
-----系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

[教科書]

ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

川合康三 『新編中国名詩選（全三冊）』（岩波文庫、2015年）ISBN:978-4-00-370001-3

[授業外学修（予習・復習）等]

各单元ごとに「参考文献」を告知するので、それによって関連図書・論文を適宜読んでください。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系7

科目ナンバリング		U-LET12 11502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ()									
【授業の概要・目的】											
「気」や「理」などの中国哲学の基本概念を講義し、中国哲学ならびに中国文化への理解を深める。											
【到達目標】											
中国哲学における「気」、「性」、「道」、「理」などの基本的諸概念の持つ意味を理解することにより、中国文化に対する考察のみならず、人類の文化全体を考えるときの基礎的な知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 中国哲学とは何か 2 中国における「学問」の意味について 3 「気」について 一 気の思想概観 4 「気」について 二 藝術作品に見る気 5 「気」について 三 死と生の説明 6 「気」について 四 太極図 7 「理」について 一 理の思想概観 8 「理」について 二 華嚴の理と朱子学の理 9 「性」について 一 孟子と荀子の性説 10 「性」について 二 朱子の性説 11 「道」について 一 儒家の考える道 12 「道」について 二 道家の考える道 13 「無」について 14 ふたたび「中国哲学とは何か」 15 試験及びフィードバック（詳細は授業時に解説） 											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末試験による（100パーセント）											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
漢文資料などは授業時に適宜コピーして配布します。

[参考書等]

(参考書)
島田虔次『朱子学と陽明学(岩波新書)』(岩波書店) ISBN:4004120284
その他は授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系8

科目ナンバリング		U-LET12 11504 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ()									
【授業の概要・目的】											
中国の目録学について概要を示すことから始めて、中国哲学史上の重要な書物について、経部と子部の書物を中心にそれぞれの内容について解説し、その書物が学問全体においてもつ位置についての知識を深める。											
【到達目標】											
中国の目録学についての基本的な知識を修得し、目録学が持つ意味を理解するとともに、中国の経部書（儒教の経書に関わる書物群）、子部書（諸子百家と、いわゆる技術書とされるもの）といった、中国哲学が主に扱う分野の書物について、それぞれの書物がどういう経緯で作られ、いったい何が書かれているか、さらには、学問全体の中でその書物がどのような位置にあるのかなどを知り、中国学を学ぶ上で基礎的な知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
1 目録と学問について 2 目録の歴史 一 焚書と目録学 3 目録の歴史 二 漢書藝文志 4 目録の歴史 三 六朝期から『四庫全書総目提要』へ 5 子部書の分類について 一 6 子部書の分類について 二 7 子部書の分類について 三 8 経部書の分類について 9 易 10 書 11 詩 12 礼 13 春秋 14 四書、小学書 15 フィードバック（詳細は授業時に解説する）											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末試験（100パーセント）											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
資料はプリントして配布します。

[参考書等]

(参考書)
野間文史『五経入門 中国古典の世界(研文選書)』(研文出版) ISBN:4876363749
その他は授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系9

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)									
【授業の概要・目的】											
<p>ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ聖典に触れ、その歴史をたどり、古代インドの宗教と思想の展開と、古代インド文化・社会の特徴を学ぶ。原典の日本語訳を精読し、そこから思想や社会背景について何かを読み取ろうとする試みを、毎回の授業で一人一人が行う。古代インドの宗教や歴史について詳しく解説を行うが、それを広く古代インドを超えて世界を理解する視点として生かすことを試みる。授業の中で、解説およびディスカッションの時間の他に、自分の考えをまとめる時間を取り、短いレポートとして毎回提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>ヴェーダ文献およびその思想、社会的背景についての知識を得る。古代の思想、古代の社会を研究する上での、様々な視点あるいは問題点について自分なりの理解を得る。古代インドに見られる様々な思想的、社会的事象を普遍的に捉え、古代インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 古代インドの歴史と言語 第2回 インド・アーリア人とヴェーダの宗教 第3回 リグヴェーダ(1)：自然神への崇拜 第4回 リグヴェーダ(2)：英雄神インドラ 第5回 リグヴェーダ(3)：哲学思想の起こりと成立・発展史の問題点 第6回 アタルヴァヴェーダ：呪術と哲学的思索 第7回 ヴェーダ祭式の発展 第8回 ヤジュルヴェーダ(1)：儀礼行為の確立と意義説明 第9回 ヤジュルヴェーダ(2)：マントラの多義化 第10回 祭式説明(ブラーフマナ)の発展 第11回 アーラニヤカ「森林書」とは何か 第12回 ウパニシャッドの成立 第13回 ウパニシャッドの発展 第14回 ダルマ・スートラ 第15回 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回授業の際に書く短いレポートを、総合して評価する。

[教科書]

必要な資料は授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系10

科目ナンバリング		U-LET13 11604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット文献史（叙事詩以降）									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』（「偉大なるバラタ族の物語」）と『ラーマヤナ』（「ラーマの勲」）以降に作られたサンスクリット文献について、分野別とその歴史的背景と内容を多角的な視点をもって概説する。これを通じて、インド古代・中世の思想、文化、社会の基本的枠組みを学び、理解することを授業の目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>インド古代・中世の思想、文化、社会を形づくる基本的枠組みを学び、理解することにより、関心ある主題に関して自学する能力が育まれることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 サンスクリット文献全般と授業で扱う分野の概説 第2回 2大叙事詩の内容と特徴 第3回 2大叙事詩の成立過程 第4回 叙事詩成立の歴史的背景 第5回 ダルマと人生の四大目的（法、実利、愛、解脱） 第6回 法典文献と政治学文献 第7回 ヒンドゥー教の形成：一神教信仰の成立とヒンドゥー神話 第8回 古伝承文献（プラーナ）の内容概観・形成史 第9回 プラーナの世界観・時間観 第10回 インドにおける説話：動物寓話と大説話 第11回 サンスクリット美文学（カーヴィヤ）のジャンル・内容概観 第12回 サンスクリット詩の諸特徴 第13回 演劇と美的体験の理論 第14回 詩学の発展、カーヴィヤの形成期から成熟期 第15回 全体の総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（60％）と期末レポート（40％）により評価する。											
【教科書】											
<p>教科書は特に使用しない。参照すべき資料は、授業内容に合わせて適宜紹介、配布される。叙事詩とカーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代」（山崎元一・小西正捷編）山川出版社（2007年）の「第9章：文学史の流れ」を主たる教材とする。</p>											
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

各ジャンルごとの参考文献リストを授業中に配布するか、KULASISにアップロードする。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は必要ない。授業中に配布する資料などを使って、講義内容の復習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)、インド哲学史(前期と後期)も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系11

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語	
題目		History of Indian Philosophy A										
【授業の概要・目的】												
<p>This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義では、インドの哲学的思想において最も影響力をもっていた哲学諸派を概観します。授業では、それぞれの学派が伝承してきた主な原典を参照しつつ、それぞれの教義について見ていきます。それによって、それらの諸伝統を形成している思想の歴史的発展と、諸伝統の間で交わされた主要な議論について考えていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA（ティーチング・アシスト）による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>												
【到達目標】												
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や思想的立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p> <p>Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.</p>												
系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く												

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.

Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.

Week 7. Vaishesika categorization. Prasastapada.

Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.

Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.

Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.

Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

第1週：序章。インド「哲学」は、インド思想における「ダルシャナ」や「タルカ」といった伝統と同じか？また、どのようにしてそれを学ぶのか？あるいは、他の伝統と比較することは可能なのか？

第2週：インド思想の資料としてのヴェーダとウパニシャッドについて。「無謬」についての伝統的な議論について。全知者としての創造者に対する反論。

第3週：文法学者と哲学の言語について。パタンジャリの『大注解』の文体と内容。バルトリハリの『ヴァーキャパディーヤ』と言語的一元論について。

第4週：アビダルマ思想および仏教の思想に見られる概念的な語彙について。

第5週：ヨーガーチャラ（瑜伽行）派の観念論（唯心論）。現象学のおよび存在論的な「空」の思想について。

第6週：ニヤーヤ学派の知識論と実在論。彼らの考える「知識による解脱」とは。

第7週：ヴァイシェシカ学派のカテゴリー論について。プラシャスタパーダによる著作を中心に。

第8週：サーンキヤ学派の二元論について。『サーンキヤ・カーリカー』と『ユクティ・ディーピカー』を中心に。

第9週：精神的なプロセスについてのヨーガ学派の考え方について。『ヨーガ・スートラ』とその注釈書を中心に。

第10週：ミーマーンサー学派の聖典解釈学について。クマーリラとプラバーカラの思想について。

第11週：アドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の不二一元論）について。シャンカラとその弟子たちの思想的伝統について。

第12週：ヴィシシュタ・アドヴァイタ（ヴェーダント学派の限定（制限）不二一元論）とドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の二元論）について。有神論的な解釈について。ラーマヌジャとマドゥヴァの思想。

第13週：シャイヴァ・シッダーンタ（シヴァ教の伝統）と『イーシュヴァラ・プラティヤビジュニ

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

ャー』について。シヴァ教の二元論と一元論。

第14週：ナヴィヤ・ニヤーヤ（新ニヤーヤ学派）について。『タットヴァ・チンターマニ』の内容と、その思想が他のすべての諸学派へ与えた影響について。

第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdeśa)』 (Oxford University Press) (pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009)

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 (Publications of the De Nobili Research Library) (Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013.)

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 (: State University of New York Press) (India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988)

Materials distributed in class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

（その他（オフィスアワー等））

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系12

科目ナンバリング		U-LET13 11704 LJ36										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語	
題目		History of Indian Philosophy B										
【授業の概要・目的】												
<p>This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義は、インドの哲学的伝統において最も影響力のあったテーマや、諸伝統の間で長年議論されてきた諸問題について概観します。授業では、原典の資料を紹介しながらそれぞれのテーマについて見ていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA（ティーチング・アシスト）による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>												
【到達目標】												
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>												
【授業計画と内容】												
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.												
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?												
Week 3. Perception												
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?												
Week 5. Inference. How can vyapti be established?												
Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?												
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----												

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 7. Analogy. Is analogy reliable?

Week 8. Other means of knowledge.

Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.

Week 10. Theories of Causation.

Week 11. Transformation and evolution.

Week 11. Agency and action.

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

- 第1週：序章。インド思想における重要なテーマ、形而上学、存在論、認識論、宇宙論について。
第2週：プラマーナ（認識論）について。正しく知るための道具とは何か？それはいくつあるのか？
第3週：正しい認識方法1。直接知覚について。
第4週：誤謬と疑いについて。認識における誤謬（誤り）とは何か？疑いにはどのような種類があるのか？
第5週：正しい認識方法2。推論について。推論における遍充関係はどのようにして確立されるのか？
第6週：正しい認識方法3。ことばによる認識について。ことばと意味の関係とは。ことばの指し示す対象とは何か？
第7週：正しい認識方法4。類推について。類推による認識は、正しい認識根拠として信頼できるのか？
第8週：その他の知識の手段について。
第9週：インド思想において論争される存在論について。存在は要素なのか、カテゴリーなのか、または現象なのか？物質と、性質、そしてそれらを結びつける諸関係について。
第10週：因果関係に関する理論。
第11週：物事の変様と展開について。行為の主体と行為について。
第12週：自己の本質と性質について。
第13週：非存在について。
第14週：インド思想における時間の理論について。
第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)へ続く

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

[成績評価の方法・観点]

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

[教科書]

Details provided in class.

[参考書等]

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005.)

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vignahavyavartani. 』 (Oxford University Press) (2010)

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 (Indian Council of Philosophical Research) (New Delhi 1996)

Details provided in class.

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

(その他(オフィスアワー等))

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系13

科目ナンバリング		U-LET14 11802 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。											
【到達目標】											
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
<p>第1回 序論：仏教と仏教学</p> <p>第2回 仏教誕生の背景</p> <p>第3回 仏陀の生涯</p> <p>第4回 初期仏教：基本的な教説</p> <p>第5回 初期仏教：教説の特徴</p> <p>第6回 初期仏教：教団の発展</p> <p>第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂</p> <p>第8回 部派仏教：阿含（アーガマ）と論（アビダルマ）</p> <p>第9回 説一切有部の思想：概説</p> <p>第10回 説一切有部の思想：その世界観</p> <p>第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立</p> <p>第12回 説一切有部の思想：五位七十五法</p> <p>第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈</p> <p>第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の十回程度の課題（70％）と筆記試験（30％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系14

科目ナンバリング		U-LET14 11804 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗経典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。											
【到達目標】											
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
<p>第1回 経量部の思想：概説</p> <p>第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理</p> <p>第3回 大乗運動と大乗経典：概説</p> <p>第4回 大乗運動と大乗経典：空性と慈悲</p> <p>第5回 中観学派の思想：概説</p> <p>第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空</p> <p>第7回 唯識学派の思想：概説とアールヤ識</p> <p>第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解</p> <p>第9回 仏教論理学派</p> <p>第10回 中期中観派</p> <p>第11回 後期インド仏教と密教</p> <p>第12回 前伝期のチベット仏教</p> <p>第13回 後伝期の仏教諸派の思想1（カダム派、サキャ派、カギユ派）</p> <p>第14回 後伝期の仏教諸派の思想2（ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派）、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の十回程度な課題（70％）と筆記試験（30％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系15

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芭蕉研究									
[授業の概要・目的]											
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期は、芭蕉が意識的に取り組んだ文学形式である「俳文」を取り上げる。俳文史について概説した上で、芭蕉作品をいくつか取り上げて精読し、その生成過程を吟味しつつ、読解方法を講義する。関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期は、芭蕉の作品と分かちがたく結びつく重要資料であり、俳文作品としても親しまれた芭蕉の書簡を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>芭蕉俳文の生成過程を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。近世前期から中期にかけての俳諧史を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 芭蕉以前の俳文(1) 短編句文 3. 芭蕉以前の俳文(2) 紀行 4. 芭蕉の短編句文(1) 句文精読 5. 芭蕉の短編句文(2) 関連資料 6. 『幻住庵記』精読(1) 概説・冒頭 7. 『幻住庵記』精読(2) 入山 8. 『幻住庵記』精読(3) 眺望 9. 『幻住庵記』精読(4) 庵住生活 10. 『幻住庵記』精読(5) 末文・発句 11. 『笈の小文』精読(1) 概説・伊賀上野 12. 『笈の小文』精読(2) 伊勢 13. 『笈の小文』精読(3) 吉野 14. 『笈の小文』精読(4) 紀伊路 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

15. 前期のまとめ
16. 書簡資料概説
17. 芭蕉の理解者：曲翠宛書簡（1）前半の精読
18. 芭蕉の理解者：曲翠宛書簡（2）後半の精読
19. 芭蕉の理解者：曲翠宛書簡（3）作品草稿としての芭蕉書簡
20. 猶子桃印：荊口宛書簡（1）前半の精読
21. 猶子桃印：荊口宛書簡（2）後半の精読
22. 猶子桃印：荊口宛書簡（3）門人との対話と芭蕉の句作
23. 芭蕉と近江俳壇：智月宛書簡（1）精読
24. 芭蕉と近江俳壇：智月宛書簡（2）芭蕉の支援者たち
25. 軽みの探求：去来宛書簡（1）前半の精読
26. 軽みの探求：去来宛書簡（2）中盤の精読
27. 軽みの探求：去来宛書簡（3）後半の精読
28. 軽みの探求：去来宛書簡（4）元禄俳壇と「軽み」
29. 総括
30. フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（30%）、小テスト（20%）、年度末のレポート（50%）による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、小テストを課題提出に変更する可能性がある。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
鈴木勝忠 『俳諧史要』（明治書院、1973）

【授業外学修（予習・復習）等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、芭蕉以外の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

国語学国文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『文選』の文章を読む(李陵「答蘇武書」)									
[授業の概要・目的]											
<p>漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることを最大の目的とする。最初は漢文とその読み方について概説をし、またテキストとなる『文選』について紹介する。</p> <p>その上で、実際の『文選』収録の文章として、李陵「答蘇武書(蘇武に答ふる書=手紙)」を読解する。その際、『文選』に附された唐の李善による注釈もあわせて読むことで、漢文読解における注釈の意義について考えてもらう。</p> <p>単純に漢文に興味を持つ人もいるであろうし、李陵については、中島敦「李陵」を読んだことがある人もいるかもしれない。この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを重視する。そのため様々な興味関心から、多くの学生の参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>目標は下記の五点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 											
[授業計画と内容]											
<p>最初のうちは講義形式で進め、時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう。</p> <p>李陵「答蘇武書」を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳 3 漢文の読み方：典故について 4 漢文の読み方：注釈について 5 漢文の読み方：注疏について 6 漢文の読み方：対句、文体について 7 『文選』について：成立と受容 8 『文選』について：李善注と五臣注 9 ~ 30 李陵「答蘇武書」の読解と討議 <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本的には学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系17

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に鏡花文学の女性像や中国文学、前近代の文学に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回に締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員は次回の講義でそれに答える。期末にはレポートを提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜講義内容に関する質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品 第2回 鏡花文学の女性像とモデル 湯浅茂 第3回 鏡花文学の女性像とモデル 目細照 第4回 鏡花文学の女性像とモデル 紅葉館のお富ほか 第5回 鏡花文学構造化の試み 第6回 中国文学の影響 - 中国文学の影響 明治三十年の随筆 第7回 中国文学の影響 - 中国文学の影響 明治三十年の雑記 第8回 中国文学の影響 - 明治四十年代以降の随筆雑記 - 第9回 中国文学の実作への影響 第10回 鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車 第11回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉と飛天夜叉 第12回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家と前の世 第13回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔 第14回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔 第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見の表明 5 割、レポート 5 割。 レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

PandAのリソースに資料や論文の一部、講義音声等を置く。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系18

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に鏡花が旅行で得た知見をどのように作品化したかや、前近代文学との関わり、子どもを視点とした作品の分析、さらに芥川龍之介や川端康成など鏡花に縁の深い作家との文学的交流、鏡花の単行本に関する書誌的考察を行う。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回に締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員は次回の講義でそれに答える。期末にはレポートを提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜質問、意見などを提出して貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文や論文を十分読み込み、質問や意見等を提出し、レポートを作成する。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品 第2回 「歌行燈」の舞台と素材 第3回 「歌行燈」の構成と主題 第4回 川端康成と泉鏡花 「雪国」と「歌行燈」 第5回 伊勢・志摩と鏡花文学 第6回 信州・飛騨と鏡花文学 第7回 「黒百合」「葎草取」の山中異界 第8回 「春昼」の山中異界 第9回 明治二十年代の子どもによる一人称小説 第10回 鏡花の子ども語り小説への影響 第11回 鏡花と芥川龍之介 第12回 鏡花と尾崎紅葉・谷崎潤一郎・辻潤・宮島資夫・安成貞雄・佐藤春夫 第13回 鏡花の単行本書誌の諸問題 概要 第14回 鏡花の単行本書誌の諸問題 特論 第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見等の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

使用しない

PandAのリソースに資料や論文の一部、講義音声等を置く。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系19

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 佐野 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々と表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論Ⅲと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 古事記概説 2 日本書紀概説 3 万葉集概説 4 調査研究法 5 古事記歌謡の特質 6 日本書紀歌謡の特質 7 「古代歌謡」について 8 実例演習 倭建尊命歌謡 9 実例演習 素盞烏尊歌謡 10 実例演習 風土記歌謡と東歌 11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革 12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題

14 歌経標式の歌体理論について

15 日本語学・日本文学Iのまとめ

8回から10回は受講生に課題を与えるのでこれまでの議論を踏まえて実際に演習形式で研究発表をしてもらいます。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)(レポート作成に使用するので購入しておくこと)
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫本です。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 佐野 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々とを表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 古事記概説(研究史) 2 日本書紀概説(研究史) 3 万葉集概説(研究史) 4 調査研究法(「初期万葉」と「記紀歌謡」その定義の在り方) 5 古事記歌謡の特質 6 日本書紀歌謡の特質 7 「古代歌謡」について(「歌の共有」がもたらすもの) 8 実例演習 担当者による演習 9 実例演習 担当者による演習 10 実例演習 担当者による演習 11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革 12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- 13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題
- 14 歌経標式の歌体理論と万葉集内部にみる「歌病歌」の分布
- 15 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫です。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系21

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 長谷川 千尋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗祇と兼載の歌学									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の中世において、古典学の発展に大きく貢献した人物の一人が宗祇である。宗祇の連歌の弟子であった兼載は、宗祇とは歌学の道統を異にしながら、これもまた古典研究に大きな足跡を残した。しばしば対立することもあった両者の学説を比較することは、それぞれの歌学の本質を浮き彫りにすることにつながるだろう。本講義では、兼載の学説、特に『新古今抜書抄』のそれを中心に読み解き、如上の問題の解明に取り組む。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。 ・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 兼載伝 2. 兼載の歌学の道統 3. 『新古今抜書抄』奥書の検討 4. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（春、夏） 5. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（秋、冬） 6. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（賀～恋） 7. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（雑、神祇） 8. 『自讃歌兼載注』と宗祇注（1） 9. 『自讃歌兼載注』と宗祇注（2） 10. 『自讃歌兼載注』と宗祇注（3） 11. 堯恵『藤川百首注』と兼載説 12. 堯恵『藤川百首注』と宗祇説 13. 兼載と宗祇の歌学 14. 兼載と宗祇の歌学と連歌(1) 15. 兼載と宗祇の歌学と連歌(2) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末レポートに拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の視点で課題を設定し、実証的に結論を導き出しているものを高く評価する。</p>											
【教科書】											
使用しない プリント配布。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レポート課題のテーマの選定、調査、論述が中心となる

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系22

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 長谷川 千尋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗祇と兼載の万葉集研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本年度前期の国文学特殊講義に引き続き、宗祇と兼載の歌学について、それぞれの『万葉集』研究に焦点を当てて考察する。具体的には、宗祇の『万葉集抄』、兼載の『万葉集百首聞書』に基づき、それぞれの注釈書の成立事情や学統、注説の特質の解明を試みる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。 ・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗祇と兼載の歌学 2. 宗祇の『万葉集』研究 3. 宗祇『万葉集抄』講読(1) 4. 宗祇『万葉集抄』講読(2) 5. 宗祇『万葉集抄』講読(3) 6. 宗祇『万葉集抄』講読(4) 7. 宗祇『万葉集抄』講読(5) 8. 兼載の『万葉集』研究 9. 兼載『万葉集百首聞書』講読(1) 10. 兼載『万葉集百首聞書』講読(2) 11. 兼載『万葉集百首聞書』講読(3) 12. 兼載『万葉集百首聞書』講読(4) 13. 兼載『万葉集百首聞書』講読(5) 14. まとめ 学期末試験 15. フィードバック 質問を受け付けます。詳細は講義中に説明します。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験（筆記）に拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

定期試験の課題に向けての事前準備が中心となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系23

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 橋本 行洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新語の造出と定着 近現代日本語における									
【授業の概要・目的】											
<p>日本語語彙の歴史について、語構成の観点を中心に、具体的事例に基づき述べる。その中で語史・語彙史研究の方法を理解するとともに、そのおもしろさに触れることを目的とする。</p> <p>特に新語や新用法がどのようにして生成され、受容されて行くのかについて、具体的な事例を掲げつつ、考察を行う。取り上げる語については、明治期の新漢語から現代の新語まで、複数のものを対象とするつもりであるが、個々の例に対してかなり細部にわたる分析を行う予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>語史・語彙史研究に対する基本的研究方法の習得を目的とする。</p> <p>具体的には下記の事項に関わる知識と能力の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事実の把握 語の成立・定着とその要因 他の語と関わりを視野に入れた語彙史研究 日本語研究資料についての正確な知識 コーパス・データベースの活用 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 「語彙」とは何か</p> <p>第2回 「語彙体系」について</p> <p>第3回 「語基」「形態素」について</p> <p>第4回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(1)「素材」</p> <p>第5回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(2)「教材」</p> <p>第6回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(3)「話材」</p> <p>第7回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(4)「食材」</p> <p>第8回 「就活」の成立事情(1)「就職運動」から「就職活動」へ</p> <p>第9回 「就活」の成立事情(2)学校用語としての「特活」「学活」「部活」</p> <p>第10回 「就活」の成立事情(3)「部活」の類推としての「就活」</p> <p>第11回 「就活」からの派生語(1)「婚活」の産出と許容</p> <p>第12回 「就活」からの派生語(2)「-活」型語彙の大量生産</p> <p>第13回 造語法の問題(1)「略語」の構成と条件</p> <p>第14回 造語法の問題(2)「略語」か「形態素」か</p> <p>第15回 語構成の歴史に現代の新語を位置づける</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業時のコメント等（30％）レポート（70％）

【教科書】

使用しない
適宜、授業時に講義資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
担当者がコピー配布できるものは授業中に配布する。不可能なものは各自図書館等でコピーするか、安価で入手しやすいものは購入すること。

（関連URL）

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/index.html(国語に関する世論調査(文化庁HP))

【授業外学修(予習・復習)等】

配布した講義資料は、毎回の講義時に必ずすべて携行してくること。
配付資料には講義中に言及されない情報が含まれる場合もある。疑問のある場合には授業中、授業後に関わらず質問してよい。
受講者が授業担当者と問題意識を共有できるよう工夫して講義を行うつもりであるから、受講者各位はそのつもりで出席してほしい。

（その他(オフィスアワー等)）

授業時にメールアドレスを公開する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系24

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 橋本 行洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語食制語彙の体系とその変遷ーヨルゴハンのできるまで									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義における 食制語彙 というのは、現代で言えば 朝食 昼食 夕食 という“正式な食事”を指す語彙という意味である。</p> <p>本講義では、日本語の食制語彙の語構成、語彙体系とその史的変遷について考察を行い、日本語語彙史・語構成史上への位置づけを試みる。</p> <p>食事制度という文化史的側面を考察するとともに、日本語語彙史研究の具体的事例として、その方法論を提示したい。</p>											
【到達目標】											
<p>食制語彙 という題材を用いつつ、以下の知見を得ることを目標とする。</p> <p>語彙体系・語構成に関わる基本的な知識の習得 語の交替と語彙体系の変遷についての構造理解 語構成に関わる問題点の認識 言語接触とその際に生じる諸現象についての知見</p> <p>以上の事項を中心に、日本語語彙史研究に関わる総合的知識を得るとともに、言語に関わる問題点の発見と、それに対する分析・考察の力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 語彙 と 語彙体系</p> <p>第2回 語構成（語形成） について 形態素 語基 接辞 など</p> <p>第3回 日本語の食制語彙とその造語法 外国語との対照</p> <p>第4回 二食制 から 三食制 へ 食事回数の変遷</p> <p>第5回 古代における食制語彙 ケの時代：古記録・古辞書の記載を中心に</p> <p>第6回 中世における食制語彙 ケからメシへ：『日葡辞書』の記載を中心に</p> <p>第7回 近世における食制語彙 メシの時代：二食制から三食制へ</p> <p>第8回 近代における食制語彙 ゴハンの登場：『和英語林集成』の記載中心に</p> <p>第9回 食事回数の変化に伴う語彙体系の変遷</p> <p>第10回 ヌウ（夕）からヨル（ヨル）へ：「夜食」とは何か？</p> <p>第11回 ヌルゴハンの成立と展開：ヨルゴハンはいつ現れたか</p> <p>第12回 語構成の問題：ヨルを前項とする複合語</p> <p>第13回 古代語ヨルアルキ・近世語ヨルガオ等の存否</p> <p>第14回 ヌル型複合語の展開</p> <p>第15回 現代語におけるヨル-の造語力</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30%、レポート70%

【教科書】

使用しない
講義中に適宜資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
担当者がコピー配布できるものは授業中に配布する。不可能なものは各自図書館等でコピーするか、安価で入手しやすいものは購入すること。

【授業外学修(予習・復習)等】

配布した講義資料は、毎回の講義時に必ず携行すること。
配付資料には講義中に言及されない情報が含まれる場合もある。疑問のある場合には授業中、授業後に関わらず質問してよい。
受講者が授業担当者と問題意識を共有できるよう工夫して講義を行うつもりであるから、受講者各位はそのつもりで出席してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業時に連絡先(メールアドレス)を通知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪市立大学文学研究科 准教授 奥野 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代文学作品原稿の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品には、幸運にも作家直筆の原稿が揃って残されている場合がある。本講義では、文学作品を原稿で読むことで、その生成過程を研究する。文学作品を「読める」状態にするために必要なのは、本文校訂と注釈であるが、原稿の研究は本文校訂の基礎であるとともに、修正痕を調べ、草稿と見比べることで、生成過程を詳細に知ることができる。完成作品を読んだ鑑賞とは異なる、近代文学研究の面白さ、および、文学作品を後世に残すために必要な基礎研究の重要性を学び、身につけることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代文学研究の基礎を修得する。 ・一般読者の目には触れない直筆稿、草稿類の研究により、作品をその成り立ちや背景に遡って考究することができるようになる。 ・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 授業内容と評価方法等について</p> <p>第2回 芥川龍之介「鼻」の原稿</p> <p>第3回 「鼻」精読(1)</p> <p>第4回 「鼻」精読(2) 典拠など</p> <p>第5回 「鼻」草稿(1)</p> <p>第6回 「鼻」草稿(2)・小レポート</p> <p>第7回 芥川龍之介「山鳴」の原稿</p> <p>第8回 「山鳴」精読(1)</p> <p>第9回 「山鳴」精読(2) 典拠など</p> <p>第10回 「山鳴」草稿(1)</p> <p>第11回 「山鳴」草稿(2)</p> <p>第12回 「山鳴」と一高生のトルストイ受容・小レポート</p> <p>第13回 谷崎潤一郎「異端者の悲しみ」の原稿</p> <p>第14回 「異端者の悲しみ」精読(1)</p> <p>第15回 「異端者の悲しみ」精読(2)・小レポート</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加姿勢（15点）、小レポート（15点）、期末レポート（70点）により評価する。
5回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

山梨県立文学館編 『芥川龍之介資料集』（山梨県立文学館、1993年）（図書館所蔵のものを参照すること。）

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・講義で扱う作品については、事前に下読みをしておくこと。（文庫本や、ネット上のテキストでも可）
- ・一作品を読み終わるごとに小レポートを課すので、毎回の授業での疑問点などを復習としてまとめておき、小レポートに反映させること。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。連絡先は授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系26

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪市立大学文学研究科 准教授 奥野 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代文学と講談本									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代文学と講談本との関わりについて研究する。講談本は、明治後半から昭和にかけて、大衆の娯楽であり、数多く出版されたが、多くは読み捨てられ、文学研究史上も長らく研究対象にされてこなかったが、近年は研究が進みつつある。芥川龍之介、菊池寛ら著名作家も講談本を下敷きに作品を書いており、本講義ではそれらを詳細に研究することで、近代文学作品を育てた豊饒な大地に古典文学や外国文学だけでなく、講談本などの大衆文芸までもが含まれていることを、明らかにし、近代文学研究の視野を広げることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代文学研究の基礎を修得する。 ・原稿・初出資料や典拠の講談本の研究により、作品をその成り立ちや出典、背景に遡って考究することの重要性を理解する。 ・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス：授業内容と評価方法等について</p> <p>第2回 講談本と近代文学</p> <p>第3回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と鼠小僧もの</p> <p>第4回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」精読</p> <p>第5回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と「報恩記」</p> <p>第6回 「報恩記」について・小レポート</p> <p>第7回 鼠小僧ものと荒畑寒村の社会講談</p> <p>第8回 社会講談とは</p> <p>第9回 荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」(1)</p> <p>第10回 荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」(2)・小レポート</p> <p>第11回 菊池寛の戯曲「岩見重太郎」と芥川</p> <p>第12回 岩見重太郎もの講談本について</p> <p>第13回 菊池寛「岩見重太郎」精読(1)</p> <p>第14回 菊池寛「岩見重太郎」精読(2)</p> <p>第15回 まとめ・小レポート</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加姿勢（15点）、小レポート（15点）、期末レポート（70点）により評価する。
5回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

菊池寛 『父帰る・藤十郎の恋 菊池寛戯曲集』（岩波文庫、2016年）ISBN:9784003106341（購入は必須ではないが、授業内容に関連して参照を勧める。）

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・講義で扱う作品については、事前に文庫本等、または事前配布のプリントで下読みをしておくこと。
- ・一作品を読み終わるごとに小レポートを課すので、毎回の授業での疑問点などを復習としてまとめておき、小レポートに反映させること。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。連絡先は授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系27

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 豊島 正之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		<p>キリシタン語学16世紀後半に来日したイエズス会による日本語研究は、「キリシタン語学」と呼ばれる国語学の一分野を成すが、本講義では、より広く、当時の非ラテン語系言語との言語学的邂逅が生んだ語学研究を研究対象とする「宣教に伴う言語学」 Missionary linguisticsの視点から、日本イエズス会の日本語研究を取り扱う。</p>									
[授業の概要・目的]											
<p>16世紀後半に来日したイエズス会による日本語研究は、「キリシタン語学」と呼ばれる国語学の一分野を成すが、本講義では、より広く、当時の非ラテン語系言語との言語学的邂逅が生んだ語学研究を研究対象とする「宣教に伴う言語学」 Missionary linguisticsの視点から、日本イエズス会の日本語研究を取り扱う。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. キリシタン語学の特徴を理解し、代表的な文献の知見を得る。 2. キリシタン語学の諸文献を日本語の歴史に関する研究に応用する際の問題点を理解する。 3. キリシタン語学を、「宣教に伴う言語学」として捉え直す視点を獲得する。 											
[授業計画と内容]											
<p>集中講義。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イエズス会教育に於けるラテン文典の位置 2. ラテン文典とパラダイム 3. 主語と格(1) 4. 主語と格(2) 5. イエズス会以外の文法記述 6. 記述者の問題(1) M. Barreto, D.Collado 7. 記述者の問題(2) J. Rodriguez・音韻記述 8. イエズス会の辞書とイベリア半島の辞書(1) 9. イエズス会の辞書とイベリア半島の辞書(2) 10. キリシタン版の印刷史(1) 11. キリシタン版の印刷史(2) 12. 仮名漢字表記の規範 13. 写本 14. 翻訳(1) 15. 翻訳(2) 											
[履修要件]											
特になし											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートに拠る。内容・提出方法は、講義形態に依存するので、集中講義期間が近付いてから、指示する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

丸山徹 『キリシタン世紀の言語学』(八木書店,2020) ISBN:9784840622448

豊島正之 『キリシタンと出版』(八木書店,2013) ISBN:9784840622073

(関連URL)

<https://joao-roiz.jp/mtoyo/K/>

[授業外学修(予習・復習)等]

講義用の資料は、pdfで上記のURLに逐次掲載し、(対面講義の場合も)紙での頒布は行なわない事を原則とする。事前に見し、必要があれば各自印刷する事。
質問などに基づいて資料を改編した場合は、その旨通知する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		歌合を読む									
【授業の概要・目的】											
新古今時代の歌壇における最大の催しであった『千五百番歌合』より、藤原俊成が加判した春三（百五十一番～）を精読する。歌合の和歌を判詞とともに読むことにより、和歌を正確に解釈するとともに、当時の和歌観を踏まえて鑑賞することをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・本歌や用例の調査に基づいて、和歌を正確に解釈する方法を習得する。 ・歌合の判詞をもとに、当時の和歌観に即した和歌の評価ができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
第1回 授業の目的や進め方を説明し、受講者の担当部分と発表順を決める。											
第2回 百五十一番を例に、調べ方やレジユメの作り方について解説する。											
第3回～第29回 作品精読 受講者の発表により作品を読み進める。発表者は担当した番の和歌の翻字、本歌の指摘、語釈、現代語訳などを行う。さらに判詞を踏まえて、それぞれの和歌を鑑賞・評価する。それらの内容をレジユメにまとめ、発表する。 発表者以外の受講者もあらかじめ熟読してから授業に臨み、積極的に質問や意見を述べることが望まれる。 各回の講読範囲はおおむね下記のように予定している（受講者の人数によって調整する）。											
第3回 百五十二番											
第4回 百五十三番											
第5回 百五十四番											
第6回 百五十五番											
第7回 百五十六番											
第8回 百五十七番											
第9回 百五十八番											
第10回 百五十九番											
第11回 百六十番											
第12回 百六十一番											
第13回 百六十二番											
第14回 百六十三番											
第15回 百六十四番											
第16回 百六十五番											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

- 第17回 百六十六番
第18回 百六十七番
第19回 百六十八番
第20回 百六十九番
第21回 百七十番
第22回 百七十一番
第23回 百七十二番
第24回 百七十三番
第25回 百七十四番
第26回 百七十五番
第27回 百七十六番
第28回 百七十七番
第29回 百七十八番

第30回 フィードバック

【履修要件】

くずし字の文献を扱うため、「国語学国文学講読」を履修済み又は受講中であることが望ましい(必須とはしない)。

【成績評価の方法・観点】

平常点(発表および授業中の発言等)による。授業時間内に発表できなかった者は、レポートで代替する。発表・レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

自分の担当以外の箇所についても、十分に下読みしてから授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『俳諧類船集』研究									
[授業の概要・目的]											
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 『俳諧類船集』概説 3. 和装本の扱い方について 4. 受講者による発表と討議 (1) 「鳩」条・前半 5. 受講者による発表と討議 (2) 「鳩」条・後半 6. 受講者による発表と討議 (3) 「はね」条 7. 受講者による発表と討議 (4) 「初音」条 8. 受講者による発表と討議 (5) 「蠅」条・前半 9. 受講者による発表と討議 (6) 「蠅」条・後半 10. 受講者による発表と討議 (7) 「蜂」条 11. 受講者による発表と討議 (8) 「蛤」条 12. 受講者による発表と討議 (9) 「鉢扣」条 13. 受講者による発表と討議 (10) 「博士」条 14. 受講者による発表と討議 (11) 「祝子」条 											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

- 15.受講者による発表と討議 (12) 「坊主」条
- 16.受講者による発表と討議 (13) 「化物」条
- 17.受講者による発表と討議 (14) 「機織」条
- 18.受講者による発表と討議 (15) 「肌」条
- 19.受講者による発表と討議 (16) 「腹」条
- 20.受講者による発表と討議 (17) 「腹立」条
- 21.受講者による発表と討議 (18) 「腹巻」条
- 22.受講者による発表と討議 (19) 「腹帯」条
- 23.受講者による発表と討議 (20) 「腹当」条
- 24.受講者による発表と討議 (21) 「母」条
- 25.受講者による発表と討議 (22) 「はらむ」条
- 26.受講者による発表と討議 (23) 「鼻」条・前半
- 27.受講者による発表と討議 (24) 「鼻」条・後半
- 28.受講者による発表と討議 (25) 「歯」条
- 29.総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、予定を変更する場合がある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

頼原退蔵『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系30

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		平安時代語の分析：語義の分類・記述									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、「平安時代語の語義の分類・記述」を通じて、日本語の歴史的研究の基本的なノウハウを習得することを目的とします。</p> <p>ある語の語義・用法を分類するためには、その語の用例をなるべく多く収集する必要がありますが、用例の収集には複数の手段があり、それぞれに長所と短所があります。また、用例は全て等質に扱って良いわけではなく、位相・文体上のバリエーション等について理解しておく必要があります。各受講生の発表に先立って、これらのことについて講義形式で概説します。</p> <p>なお評価に際しては、調査・分類が適切に行われているかという点と共に、それらを適切にアウトプットできているか（口頭発表・文章の形で）という点も大いに重視します。研究活動においては、適切な表現や、引用のルールなど、遵守・留意の必要な事項が幾つかあります。このことの要点についても演習中に説明します。自分の知識や経験を適切にアウトプットする能力は、日本語学研究に限らず社会の幅広い局面において有用と考えられます。</p>											
【到達目標】											
<p>(イ) 日本語学研究における用例の集め方・扱い方を身につける。</p> <p>(ロ) 多数の実例に基づいて語の特徴を適切に記述できる。</p> <p>(ハ) 自分の知識や経験を適切にアウトプットできる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：講義（発表準備の方法について）</p> <p>第3・4回：講義（平安時代語の語彙・文体）</p> <p>第5～29回：受講生による発表</p> <p>第30回：フィードバック（講評等）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点および期末課題による（100％）。</p> <p>演習では、自分の発表だけでなく他人の発表も学習の大きな機会です。欠席はなるべく控えて下さい。特に、無断欠席は大幅な減点とします。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：古語辞典などによって対象語の基礎知識を得る。
復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系31

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を精読してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の王建「綺岫宮」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 王建「綺岫宮」											
第3回 李洞「送三蔵帰西域」											
第4回 王昌齡「長信秋詞」											
第5回 陳羽「呉城覧古」											
第6回 于鵠「江南意」											
第7回 孟遲「閑情」											
第8回 鄭谷「曲江春草」											
第9回 崔魯「山路見花」											
第10回 岑参「逢入京使」											
第11回 韓コウ「送客之上党」											
第12回 司空曙「病中遣妓」											
第13回 王建「華清宮」											
第14回 杜牧「宣州開元寺」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

[参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系32

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の杜牧「山行」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 杜牧「山行」											
第3回 張喬「寄山僧」											
第4回 張テイ「寄人」											
第5回 雍陶「過南隣花園」											
第6回 杜牧「宮詞」											
第7回 杜牧「漢江」											
第8回 張喬「寄維揚故人」											
第9回 僧法振「逢友人之上都」											
第10回 顧況「山中」											
第11回 柳宗元「酬曹侍御過象泉見寄」											
第12回 李涉「宿武関」											
第13回 李涉「題開聖寺」											
第14回 李郢「宿虚白堂」											
第15回 まとめ											
精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

[参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系33

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本井 牧子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『地蔵菩薩靈驗絵詞』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、宋代に撰述された『地蔵菩薩像靈驗記』を和化した絵巻『地蔵菩薩靈驗絵詞』を題材として、中国で撰述された仏教説話の日本における受容と展開の様相を具体的にあきらかにすることを目標とする。</p> <p>宋代に常謹という僧侶によって編まれた『地蔵菩薩像靈驗記』は、地蔵菩薩の像にまつわる靈驗譚を集成したものである。日本に写本が伝存しており、説話集や唱導文献に引かれるなど、中世の地蔵信仰に大きな影響を及ぼしたことが知られている。この靈驗記を和訳し絵巻に仕立てたのが『地蔵菩薩靈驗絵詞』である。本授業では、この『地蔵菩薩靈驗絵詞』をテキストとして、原拠の『地蔵菩薩像靈驗記』と比較しつつ読み進めることで、中国の靈驗譚が日本でどのように受容され、絵巻として再生産されているかを考察する。本授業では絵巻の前半部分を扱う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・影印をもとに、翻刻・語釈を施し、通釈を作成するという、古典文学作品の読解のための基礎作業を行う手法を習得する。 ・日本と中国の文献の比較を行いながら、問題を設定し、調査・考察を行う力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>担当教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p> <p>第1回 宋 常謹撰『地蔵菩薩像靈驗記』・『地蔵菩薩靈驗絵詞』概説 第2回 『地蔵菩薩像靈驗記』の古写本 第3回 『地蔵菩薩靈驗絵詞』諸本 第4回～第14回 担当者による輪読 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発表およびその成果をまとめたレポート、発表者へのコメントにより総合的に評価する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
写本の影印をテキストとして配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の担当の準備はもちろん、担当以外の回についても、あらかじめテキストを読んで問題点を抽出しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法などはPandAに掲載予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系34

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本井 牧子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『地蔵菩薩靈驗絵詞』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、宋代に撰述された『地蔵菩薩像靈驗記』を和文化的絵巻『地蔵菩薩靈驗絵詞』を題材として、中国で撰述された仏教説話の日本における受容と展開の様相を具体的に明らかにすることを目標とする。</p> <p>宋代に常謹という僧侶によって編まれた『地蔵菩薩像靈驗記』は、地蔵菩薩の像にまつわる靈驗譚を集成したものである。日本に写本が伝存しており、説話集や唱導文献に引かれるなど、中世の地蔵信仰に大きな影響を及ぼしたことが知られている。この靈驗記を和訳し絵巻に仕立てたのが『地蔵菩薩靈驗絵詞』である。本授業では、この『地蔵菩薩靈驗絵詞』をテキストとして、原拠の『地蔵菩薩像靈驗記』と比較しつつ読み進めることで、中国の靈驗譚が日本でどのように受容され、絵巻として再生産されているかを考察する。本授業では絵巻の後半部分を扱う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・影印をもとに、翻刻・語釈を施し、通釈を作成するという、古典文学作品の読解のための基礎作業を行う手法を習得する。 ・日本と中国の文献の比較を行いながら、問題を設定し、調査・考察を行う力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>担当者教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p> <p>第1回 宋 常謹撰『地蔵菩薩像靈驗記』・『地蔵菩薩靈驗絵詞』をめぐる諸問題 第2～第3回 地蔵菩薩靈驗記・社寺縁起の諸相 第4回～第14回 担当者による輪読 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発表およびその成果をまとめたレポート、発表者へのコメントにより総合的に評価する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
写本の影印をテキストとして配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の担当の準備はもちろん、担当以外の回についても、あらかじめテキストを読んで問題点を抽出しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法などはPandAに掲載予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系35

科目ナンバリング		U-LET10 21350 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(講読) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小林 雄一			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『高倉院升遐記』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>『高倉院升遐記』は、源通親（1149-1202）の文学作品であり、高倉上皇（1161-81）の崩御から一周忌までの出来事を仮名文で記したものである。その文章は漢籍や仏典、先行の文学作品を踏まえた表現を交えつつ、重層的な文脈を形作っている。</p> <p>本授業では、写本を解読して、そこに注釈を加えつつ丁寧に読み解いていくことで、文献を研究するうえで基礎となる考え方や方法を学び、実践していく。また、当時の知識人が基盤とした知とはどのようなものであったのか、また、それらに基づいてどのような表現が行われているのかといった点についても、考察を深めていく。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究の基本となる、実証的な態度とはどのようなものかを考え、実践していく力を身につける。 ・国語学国文学研究の工具書、データベースなどの使い方について学び、それらを有効に活用できるようにする。 ・「くずし字」を正確に解読する力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
【各授業の内容】											
第1回 導入 ガイダンス											
第2回 導入 模擬発表											
第3回 導入 模擬発表の解説、振り返り											
以下の丁数は、東京国立博物館蔵本（梅沢記念館旧蔵）による											
第4回 受講者による発表 50丁裏～51丁表											
第5回 受講者による発表 51丁裏～52丁表											
第6回 受講者による発表 52丁裏～53丁表											
第7回 受講者による発表 53丁裏～54丁表											
第8回 受講者による発表 54丁裏～55丁表											
第9回 受講者による発表 55丁裏～56丁表											
第10回 受講者による発表 56丁裏～57丁表											
第11回 受講者による発表 57丁裏～58丁表											
第12回 受講者による発表 58丁裏～59丁表											
第13回 受講者による発表 59丁裏～60丁表											
第14回 受講者による発表 60丁裏～61丁表											
（試験）くずし字読解試験											
第15回 前期フィードバック											
第16回 前期の振り返り											
第17回 受講者による発表 61丁裏～62丁表											
第18回 受講者による発表 62丁裏～63丁表											
第19回 受講者による発表 63丁裏～64丁表											
----- 国語学国文学(講読)(2)へ続く -----											

国語学国文学(講読)(2)

第20回	受講者による発表	64丁裏～65丁表
第21回	受講者による発表	65丁裏～66丁表
第22回	受講者による発表	66丁裏～67丁表
第23回	受講者による発表	67丁裏～68丁表
第24回	受講者による発表	68丁裏～69丁表
第25回	受講者による発表	69丁裏～70丁表
第26回	受講者による発表	70丁裏～71丁表
第27回	受講者による発表	71丁裏～72丁表
第28回	受講者による発表	72丁裏、24丁表
第29回	受講者による発表	24丁裏～25丁表

(試験)くずし字読解試験

第30回 後期フィードバック

受講者の人数や発表希望者の数により、導入の授業数を調整する可能性がある。

【授業内容の詳細】

・第1～3回：導入

授業の進め方や扱う作品の時代背景などを説明した後に、発表のデモンストレーションを行う。その後、発表方法について解説した上で、発表を行う順番と担当箇所を決定する。

・第4～30回：発表(演習)

毎回1～2人の受講者が発表し、それに基づき議論するという形で進める。

・各学期末にくずし字の読解試験を行い、フィードバックを行う。

【発表について】

・発表者は担当箇所の本文を翻刻したうえで、用例を挙げて語釈を付ける。さらに問題点を自ら見つけ出し、深く掘り下げて検討する。以上の内容を盛り込んだ発表資料を準備し、発表を行う。

・発表をうけて、受講者全員で議論・検討を行う。

・授業内に発表が回らなかった受講者は、学年末にレポートとして提出する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(30点)：授業中の発言や、授業後のコメントカードによる

各学期末の試験(20点)：「くずし字」を正確に読解できるか確認する

発表・レポート(50点)：内容の正確さ、ツールの活用、考察が練られているか等を評価する

【教科書】

プリントを授業中に配布する。

【参考書等】

(参考書)

『くずし字読解辞典』(東京堂出版)等のくずし字の辞典を準備することが望ましい。その他については、授業中に適宜紹介する。

国語学国文学(講読)(3)へ続く

国語学国文学(講読)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者以外の受講者は、当該箇所を各自予習し、疑問点や問題点を洗い出した上で授業に臨むこと。授業中の積極的な発言を期待する。

(その他(オフィスアワー等))

ガイダンスを行うので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。授業資料はkulasisおよびPandAで配布し、課題の提出等でPandAを利用するので、こまめに確認すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系36

科目ナンバリング		U-LET10 41345 SJ36										
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(卒論演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子	文学研究科 准教授 河村 瑛子	文学研究科 講師 田中 草大		
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語	
題目		卒業論文演習										
【授業の概要・目的】												
卒業論文の執筆にむけての指導を行う。論文の題目を何にするか、どのような方法で資料を集め、分析し、そこからどのような結論を導くか、各自工夫し、考えたことを発表し、相互批判し、また教員の指導を受ける機会とする。卒業論文を提出する予定の四回生は、かならず受講し、中間発表会で発表しなければならない。												
【到達目標】												
卒業論文作成のための、それぞれの分野における基礎資料を調査する方法を身に付け、また中間発表で論文の概要を口頭発表し、他の出席者、教員の助言をうけることにより、論証の方法を反省し、修正することが可能になる。												
【授業計画と内容】												
最初の授業時に、全員、どのような卒業論文を書こうとしているか、概略を発表する。その後は個別の指導を行い、後期の授業が始まる前に、数日間の日程をとって集中的に中間発表会を行う。												
【履修要件】												
今年度末に学部卒業見込みの者。												
【成績評価の方法・観点】												
中間発表による。												
【教科書】												
使用しない												
----- 国語学国文学(卒論演習)(2)へ続く -----												

国語学国文学(卒論演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
特になし。

[授業外学修(予習・復習)等]

最初の時間に、各自が卒業論文に何を書くかその概要を発表するが、十分な準備をした上で臨むこと。また、中間発表では、論証のための調査と考察に力を尽くすことはもちろんのこと、限られた時間内において分かりやすい発表をするために原稿を準備し、発表の練習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系37

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

(関連URL)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門(資料)(中里見敬氏))

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理 (永田知之))

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために (小島浩之氏))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系38

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類） 第4回 経部・四書等（四書類～小学類） 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類） 第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類） 第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類） 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類） 第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類） 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
-----中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系39

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐代詩序選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解することを目的とする。本講義では、東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げたい。											
【到達目標】											
詩序は、中国文学の散文の主要なジャンルである。読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
【授業計画と内容】											
第1 詩序というジャンルについて 第2 詩序の役割・用途。 第3 唐以前の詩序 第4 唐代の詩序の文体。駢文と古文 第5 唐代の詩序の役割1 第6 唐代の詩序の役割2 第7 詩序の広がり 第8 作品選読・初唐1 第9 作品選読・初唐2 第10 作品選読・日本における詩序作品 第11 作品選読・盛唐1 第12 作品選読・盛唐2 第13 詩序と関連ジャンル。詩、啓など 第14 作品選読・中唐 第15 まとめ・日中古典世界に於ける詩序											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

中国の散文の歴史について、基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に紹介する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系40

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐代詩序選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解することを目的とする。本講義では、東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げたい。											
【到達目標】											
詩序は、中国文学の散文の主要なジャンルである。読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
授業計画と											
【授業計画と内容】											
第1 詩序について概説 第2 詩序の文体（駢文と古文） 第3 詩序の用途、詩序の場 第4 作品選読1・中唐1 第5 作品選読2・中唐2 第6 作品選読3・中唐3 第7 作品選読4・平安朝の詩序 第8 中唐の詩序の特色。 第9 作品選読5・晩唐1 第10 作品選読6・晩唐2 第11 作品選読7・晩唐3 第12 晩唐の詩序の特色。 第13 詩序の役割とその変容。 第14 唐以降の詩序概説 第15 まとめ詩の場と詩序											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の散文文体について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系41

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う ・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する 											
【授業計画と内容】											
<p>前期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合がある。</p> <p>〔第1部〕基礎編</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 中国語の音韻構造と現代北京音</p> <p>第3回 中古音概説(1)：韻書・反切・韻図</p> <p>第4回 中古音概説(2)：『切韻』の韻母・声調体系</p> <p>第5回 中古音概説(3)：『切韻』の声母体系</p> <p>第6回 中古音概説(4)：唐代中期の長安音</p> <p>第7回 近世音概説：元代の大都音</p> <p>〔第2部〕声母編</p> <p>第8回 中近世諸文献概説</p> <p>第9回 清濁論(1)：唐代音の清濁と近世への変化</p> <p>第10回 清濁論(2)：中近世諸文献における全濁音</p> <p>第11回 清濁論(3)：中近世諸文献における次濁音</p> <p>第12回 五音論(1)：唇牙喉音に関する諸問題</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 五音論(2)：舌歯音に関する諸問題

第14回 声母総論

第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する

【参考書等】

（参考書）

牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN: 9784469232646

【授業外学修（予習・復習）等】

特に第1部で扱う術語・概念はその後の授業に必須の知識なので、定着するまで復習してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う ・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する 											
【授業計画と内容】											
後期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合がある。											
<p>[第1部] 韻母編</p> <p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 中心音論</p> <p>第3回 陽声韻論(1)：-n, -m韻尾類</p> <p>第4回 陽声韻論(2)：-ng韻尾類</p> <p>第5回 陰声韻論(1)：-y, -w韻尾類</p> <p>第6回 陰声韻論(2)：ゼロ韻尾類</p> <p>第7回 入声韻論(1)：-d, -b韻尾類</p> <p>第8回 入声韻論(2)：-g韻尾類</p> <p>第9回 韻母総論</p> <p>[第2部] 声調編</p> <p>第10回 声調論(1)：唐代音の調類と調値</p> <p>第11回 声調論(2)：声調の付随特徴について</p> <p>第12回 声調論(3)：陰陽調について</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

- 第13回 声調総論
第14回 まとめ
第15回 フィードバック

【履修要件】

前期の中近世中国語音史 を受講していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する

【参考書等】

（参考書）
牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN:
9784469232646

【授業外学修（予習・復習）等】

前期の復習をして臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系43

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文学論としての総集（選本）									
【授業の概要・目的】											
この講義は、複数の作家の詩文を収めたアンソロジー、中国の目録学の用語でいう「総集」について、文学論・文学批評という視点から考察してゆく。対象とするのは、主に六朝から宋・元に至る重要な著作『（昭明）文選』『文苑英華』『瀛奎律髓』である。											
【到達目標】											
比較的大部の網羅的な「総集」である『文選』『文苑英華』、および唐宋の律詩に限定した選本『瀛奎律髓』に関する基本事項を理解したうえで、それぞれの文学論としての特徴と意義を考察することができる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に沿って講義を進める。ただし講義の進度や受講者の状況によって、テーマごとの回数や順序を変更することがある。											
第1回 「総集」とは何か											
第2回 「総集」の歴史											
第3回 『文選』の版本と注釈											
第4回 昭明太子「『文選』序」を読む											
第5回 『文選』と沈約											
第6回 『文選』と『玉台新詠』											
第7回 唐宋における『文選』											
第8回 『文苑英華』の編纂と分類											
第9回 『文苑英華』収録作品から見た文学観											
第10回 『文苑英華』と『唐文粹』											
第11回 『瀛奎律髓』の編者方回											
第12回 『瀛奎律髓』と江西詩派の詩学											
第13回 『瀛奎律髓』の詩体観と題材論											
第14回 日本で流行した唐詩選本											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み（40点）、期末レポート（60点）により評価する。											
【教科書】											
使用しない ハンドアウトを配布。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

川合康三ほか『文選 詩篇(一)～(六)』(岩波文庫、2018-19年) ISBN:978-4-00-320451-1

凌朝棟『文苑英華研究』(上海古籍出版社、2005年) ISBN:7-5325-3981-4

詹杭倫『方回的唐宋詩律学』(中華書局、2002年) ISBN:7-101-03428-4

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系44

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		上古音講義									
【授業の概要・目的】											
<p>上古音研究は清朝考証学者らによる押韻・諧声系列の整理にはじまり、20世紀初頭のKarlgrenの登場によって大きく進展し、Karlgren以降になると、董同[和]、李方桂、Yakhontov、梅祖麟、Baxter、鄭張尚芳、潘悟雲、Schuessler、Sagartらの研究が中心となる。</p> <p>本講義は上古中国語音韻史（上古音研究）の概要と近年の発展について、その大まかな流れを概観し、議論することである。特に、近年の研究について紹介する予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>中国語の上古音研究がどのように行われてきたのか、主要な業績を紹介しながら研究の歴史を辿り、詩経の押韻および諧声符から推定される上古中国語の音韻体系を概観する。これまでの研究で何がどのように明らかにされてきたのかについて学ぶとともに、あわせて中国語史の基本的な術語や文献資料についても理解を深める。</p> <p>また出土資料等でみられる通仮（当て字の用法）の可否を判断できるようになることを目標の一つとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。</p> <p>前半：基礎的な内容 第1回、第2回、第3回：ガイダンス 中国語音韻学の述語の確認、中古音 第4回、第5回、第6回：上古音の時代区分、上古音研究の方法と蓋然性、問題点 第7回、第8回、第9回：伝統的手法「韻部」「声母」</p> <p>後半：近年の研究成果 第10回、第11回、第12回、第13回、第14回： 出土資料とびん語を用いた上古音研究：舌音2タイプ、*s- preinitial、円唇母音仮説、前舌母音仮説、*r-の再構 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：授業への取り組み（50点）と授業内小レポート（50点）											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
配布資料を準備する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系45

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 赤松 紀彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『牡丹亭』研究									
【授業の概要・目的】											
中国伝統演劇作品の最高峰とされる『牡丹亭還魂記』をとりあげ、講義の前半ではその構成、表現の特徴および演劇作品としてどのように受容されてきたのかといった問題を考察する。さらに後半では、作品をたんねんに読み進めながら、これらについて具体的に考察する。											
【到達目標】											
文学作品としてだけでなく、舞台上の演劇作品としても愛されてきた『牡丹亭還魂記』をとりあげて、中国伝統演劇についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、各テーマの回数を変更することがある。											
第1～3回 明代演劇史の中での『牡丹亭』											
第4～6回 『牡丹亭』の構成											
第7～8回 舞台上での『牡丹亭』～清代における演变											
第9～10回 『牡丹亭』を読み解く 第七齣 閨塾											
第11～12回 『牡丹亭』を読み解く 第十齣 驚夢											
第13～14回 『牡丹亭』を読み解く 第十二齣 尋夢											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
中国語及び中国古典文学についての基本的知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(20%)とレポート(80%)により評価する。レポートは、『牡丹亭』の演劇としての特徴について論じてもらう。概説的なものではなく、独自の観点から論じようとする姿勢が見られるものを、積極的に評価する。											
【教科書】											
プリント配布。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

中国の伝統演劇史について、参考書等によってその基本的な展開について理解しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワー：水曜午後1時～5時（A124研究室）
メールアドレス：akamatsu.norihiko.3x@kyoto-u.ac.jp
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系46

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 赤松 紀彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『牡丹亭』研究									
【授業の概要・目的】											
中国伝統演劇作品の最高峰とされる『牡丹亭還魂記』をとりあげ、作品をたねんに読み進めながら、これらについて具体的に考察する。これと並行して、映像資料なども用いながら、演劇としての特徴について論じてゆく。											
【到達目標】											
文学作品としてだけでなく、舞台上の演劇作品としても愛されてきた『牡丹亭還魂記』をとりあげて、中国伝統演劇についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、各テーマの回数を変更することがある。											
第1～2回 『牡丹亭』の構成と演劇としての特徴											
第3～4回 『牡丹亭』を読み解く 第十四齣 写真											
第5～6回 『牡丹亭』を読み解く 第二十齣 鬧殤											
第7～8回 『牡丹亭』を読み解く 第二十四齣 拾画											
第9～10回 『牡丹亭』を読み解く 第三十二齣 冥誓											
第11～12回 『牡丹亭』を読み解く 第三十五齣 回生											
第13～14回 『牡丹亭』を読み解く 第五十三齣 硬拷											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
中国語及び中国古典文学についての基本的知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(20%)とレポート(80%)により評価する。レポートは、『牡丹亭』の一齣を選んで訳注を作ってもらおう。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の伝統演劇史について、参考書等によってその基本的な展開について理解しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワー：水曜午後1時～5時(A124研究室)
メールアドレス：akamatsu.norihiko.3x@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系47

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大木 康			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明清時代文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>明清両代の文学は、雅俗にわたるさまざまな文学ジャンルが確立し、行われていたことが一つの特徴といえるであろう。本講義では、雅文学（詩・散文）、俗文学（戯曲・小説・歌謡など）各ジャンルの作品講読を通して、作品を読み味わうとともに、当時の文学状況を探ることを目指したい。雅文学と俗文学とを別のもの、対立的なものと考えのではなく、とりわけ両者の交錯する場に注意して考えてみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国文学の各ジャンルについての基礎知識を習得する。例えば、詩詞曲などの韻文については、その格律などについて。白話小説であれば「白話」について、など。 ・ 文学作品が生まれる背景としての中国人の思考方法、中国社会の動き方や制度などについての理解を深める。 ・ 明清の時代状況について理解する。 ・ 過去の文学作品が現在に伝わるまでの経路や媒体について理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>この講義では、以下のいくつかのテーマを中心に考えてみたい。授業の進捗状況や履修者の関心の状況によって、多少の内容変更がありうる。作品の講読が中心になるので、履修者が予習の時間をとれるよう配慮したい。</p>											
<ul style="list-style-type: none"> (1) 明清時代と明清文学についての概説 【第1回】 (2) 科挙と文学 【第2回～第3回】 八股文、白話小説（『警世通言』巻18「老門生三世報恩」） (3) 経学と評点【第4回～第5回】 『四書大全』、張居正『四書直解』、金聖歎『第五才子書水滸伝』 (4) 『詩経』と民間歌謡【第6回～第7回】 馮夢龍「叙山歌」を中心に (5) 遺民の文学【第8回～第9回】 呉偉業『秣陵春』、冒襄『同人集』 (6) 文藝の場としての妓楼【第10回～第11回】 『金陵百媚』、『呉姫百媚』、馮夢龍「馮生伝」 (7) 地方志と文藝【第12回～第13回】 『桐橋倚棹録』、『虎邱志』、『味水軒日記』 (8) 鈔本と刻本【第14回】 『聊齋志異』、『紅樓夢』の場合 (最終回) 総括と試験【第15回】 											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講読の担当と討論への積極的な参加、最終回における試験の成績による。

【教科書】

講読する資料については、事前にコピーを配布するので、予習をしておいてほしい。

【参考書等】

(参考書)

丸橋充拓 『江南の発展: 南宋まで』 (岩波書店, 2020) ISBN:9784004318057

壇上寛 『陸海の交錯 明朝の興亡』 (岩波書店, 2020) ISBN:9784004318071

岡本隆司 『「中国」の形成 現代への展望』 (岩波書店, 2020) ISBN:9784004318088

島田虔次 『朱子学と陽明学』 (岩波書店, 1967)

井上進 『中国出版文化史 書物世界と知の風景』 (名古屋大学出版社, 2002) ISBN:978-4-8158-0420-6

入矢義高 『明代詩文』 (筑摩書房, 1978)

宮崎市定 『科挙 中国の試験地獄』 (中公文庫, 1984)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で読む材料については、なるべく早めに受講者の手に渡るようにするので、事前に準備しておいてほしい。

上記の参考書は、明清時代の文学を考える上で重要な知識を与えてくれる書物なので、目を通して読んでもらうことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系48

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		曾鞏文									
【授業の概要・目的】											
北宋の曾鞏（1019-1083）は、唐宋八大家の一人に数えられる古文の名手である。本演習では、曾鞏の序を輪読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語文言文をスムーズに音読することができる。 ・ 文化的背景を踏まえて古文テキストの表現内容を理解することができる。 ・ 古文の表現上の特性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
概ね以下のスケジュールによって読み進めるが、出席者の理解度に応じて進度を適宜調整する。											
第1回 古文と曾鞏についての概観、使用テキストの確認											
第2回 「王無咎字序」											
第3回 「送蔡元振序」											
第4～6回 「送丁yan序」											
第7回 「謝司理字序」											
第8～9回 「新書目録序」											
第10～11回 「梁書目録序」											
第12～13回 「列女傳目録序」											
第14～15回 「禮閣新儀目録序」											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習に十分に時間をかけることを前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への積極的な参加、中国語による音読の習熟度、テキストの理解度）による。											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

『新華字典』(商務印書館)

『古漢語常用字字典(繁體字本)』(商務印書館) ISBN:9787100053648

[授業外学修(予習・復習)等]

全文を中国語で明瞭に朗読できるよう字音を調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系49

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		曾鞏文									
【授業の概要・目的】											
北宋の曾鞏（1019-1083）は、唐宋八大家の一人に数えられる古文の名手である。本演習では、曾鞏の記を輪読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語文言文をスムーズに音読することができる。 ・ 文化的背景を踏まえて古文テキストの表現内容を理解することができる。 ・ 古文の表現上の特性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
概ね以下のスケジュールによって読み進めるが、出席者の理解度に応じて進度を適宜調整する。											
第1回 古文と曾鞏についての概観、使用テキストの確認											
第2～4回 「宜黄縣縣學記」											
第5～6回 「學舍記」											
第7～8回 「南軒記」											
第9回 「金山寺水陸堂記」											
第10回 「鵝湖院佛殿記」											
第11～12回 「思政堂記」											
第13回 「兜率院記」											
第14～15回 「飲歸亭記」											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習に誠実に時間をかけることを前提として履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への積極的な参加、中国語による音読の習熟度、テキストの理解度）による。											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

『新華字典』(商務印書館)

『古漢語常用字字典(繁體字本)』(商務印書館) ISBN:9787100053648

[授業外学修(予習・復習)等]

全文を中国語で明瞭に朗読できるよう字音を調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系50

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『中国新文学大系』導論選読1									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀以降の中国文学作品は古典的文学作品とは一線を画し、1915年発刊の『新青年』を舞台に展開した白話運動によってその文体上の基盤が築かれた。1919年の五・四運動を経て、多様な文学結社と文学思潮による論争を経、徐々に近代的文学作品を生み出していく過程は、中国における「近代」を考える上での多くの示唆を与えてくれる。本授業では、その新文学形成期の代表的作品群を読むことにより、中国文化における近代、また白話と文言との相関関係など、中国語学・文学の基礎的知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>本年は、『中国新文学大系』導論を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>中国現代文学を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、20世紀初頭の時代背景を踏まえて文学作品を読む力を養う。中でも、正確な読解力と文学的鑑賞力を重視する。また、時代背景や作品の位置づけなどについては、受講者が自力で調査し発表することを求め、それによって研究発表の能力を育成する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>『中国新文学大系』導論を読む。受講生は、必ず予習をして授業に臨むこと。</p> <p>授業では受講生全員が翻訳を担当し、それ以外に、各自の課題を見つけるよう、関連する文献を読み込むことを求める。</p> <p>第1回：資料、参考書の説明 第2-4回：『中国新文学大系』導論「小説」(一)を読む 第5-7回：『中国新文学大系』導論「小説」(二)を読む 第8-10回：『中国新文学大系』導論「小説」(三)を読む 第11回：「小説」に関するディスカッション 第12-14回：『中国新文学大系』導論「散文」を読む 第15回：「散文」に関するディスカッション</p> <p>授業中に、ディスカッションの材料となる文献調査を各自に課す予定である。</p>											
【履修要件】											
<p>全学共通科目にて、中級中国語を履修していること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価。読解能力のみならず、討論時の発言や調査内容も評価の対象とする。</p>											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[教科書]

資料をコピーにて配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は、原文の翻訳を用意して授業に臨むこと。また授業中の議論に積極的に参加し、文献調査を分担すること。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で、予習方法などを説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系51

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『中国新文学大系』導論選読2									
[授業の概要・目的]											
前期に引き続き、『中国新文学大系』導論を読む。											
[到達目標]											
中国現代文学を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、20世紀初頭の時代背景を踏まえて文学作品を読む力を養う。中でも、正確な読解力と文学的鑑賞力を重視する。また、時代背景や作品の位置づけなどについては、受講者が自力で調査し発表することを求め、それによって研究発表の能力を育成する。											
[授業計画と内容]											
『中国新文学大系』導論を読む。受講生は、必ず予習をして授業に臨むこと。 授業では受講生全員が翻訳を担当し、それ以外に、各自の課題を見つけるよう、関連する文献を読み込むことを求める。 第1回：前期の復習 第2-5回：『中国新文学大系』導論「戯劇」を読む 第6回：「戯劇」に関するディスカッション 第7-9回：『中国新文学大系』導論「詩集」を読む 第10回：「詩集」に関するディスカッション 第11-14回：『中国新文学大系』導論「文学論争」を読む 第15回：総括討論 受講者は、ディスカッションに関する資料調査を担当する。											
[履修要件]											
全学共通科目で中級中国語を履修していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。翻訳読解のみならず、討論時の発言、調査報告についても評価の対象とする。											
[教科書]											
資料をコピーして配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は、原文の翻訳を用意して授業に臨むこと。また授業中の議論に積極的に参加し、文献調査を分担すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の王建「綺岫宮」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 王建「綺岫宮」											
第3回 李洞「送三蔵帰西域」											
第4回 王昌齡「長信秋詞」											
第5回 陳羽「呉城覧古」											
第6回 于鵠「江南意」											
第7回 孟遲「閑情」											
第8回 鄭谷「曲江春草」											
第9回 崔魯「山路見花」											
第10回 岑参「逢入京使」											
第11回 韓コウ「送客之上党」											
第12回 司空曙「病中遣妓」											
第13回 王建「華清宮」											
第14回 杜牧「宣州開元寺」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での担当、発言）による。

【教科書】

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

【参考書等】

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系53

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の杜牧「山行」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 杜牧「山行」											
第3回 張喬「寄山僧」											
第4回 張テイ「寄人」											
第5回 雍陶「過南隣花園」											
第6回 杜牧「宮詞」											
第7回 杜牧「漢江」											
第8回 張喬「寄維揚故人」											
第9回 僧法振「逢友人之上都」											
第10回 顧況「山中」											
第11回 柳宗元「酬曹侍御過象泉見寄」											
第12回 李涉「宿武関」											
第13回 李涉「題開聖寺」											
第14回 李郢「宿虚白堂」											
第15回 まとめ											
精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

[参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系54

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		莫言の戯劇を読む									
[授業の概要・目的]											
莫言(1655-)は、同時代中国を代表する小説家の一人であり、2012年にノーベル文学賞を受賞した。本講読では、その話劇作品で中国古典に取材した「霸王別姫」を読む。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・口語から書面語にわたる幅広い中国語表現を正確に理解することができる。 ・同時代文芸をとおして、古典受容のあり方を批判的に理解する。 											
[授業計画と内容]											
第1回 莫言の文学概観、使用テキストの確認 第2～6回 はしがき・第一節 第7～10回 第五節 第11～12回 第六節 第13～14回 第七節 第15回 総括											
[履修要件]											
全学共通科目で中国語初級の基礎力を確実に身につけており、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習に応分の時間をかけることを前提とする。中国語を母語とする学生は対象としない。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(中国語の発音評価を含む)70%、試験30%。											
[教科書]											
授業中にプリント資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 莫言 『我們的荊軻』(新世界出版社) ISBN:9787510434600 『新華字典』(商務印書館) 『史記列伝』(岩波書店) ISBN:9784002010175											
[授業外学修(予習・復習)等]											
中国語の原典をそのまま用いるので、予習に時間をかけなくてはならない。特に、ピンインを調べて覚えるために一定の時間と労力を割くこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
中国語学中国文学専修の学生は、後期に開講する講読とあわせて4単位を取得する必要がある。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系55

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		唐詩入門									
【授業の概要・目的】											
中国でスタンダードな唐詩のアンソロジーとして親しまれている『唐詩三百首』の本文により、古典詩の主要な形式が出そろい、重要な作者・作品に富んだ唐の時代の詩を読む。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・現代中国語による音読をとおして中国古典詩固有の韻律を体得する。 ・中国古典詩の形式を理解する。 ・現代中国語の注解を手がかりとして中国古典詩文を読解する基礎力を獲得する。 ・唐詩の表現するところをその文化的背景を含めて理解することができる。 											
【授業計画と内容】											
以下のスケジュールにそって読み進める。現代中国語による注釈・解説の読解を含む。											
第1回 唐詩の概観、使用テキストの確認											
第2～4回 絶句											
第5～8回 律詩											
第9～11回 古詩											
第12～14回 楽府											
第15回 総括											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語初級・中級をあわせてすでに1年半程度学習してきた学部学生を主な対象として授業をすすめる。正確な発音を心がけること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（中国語の発音評価を含む）70%、試験30%											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>『新譯唐詩三百首』（三民書局）ISBN:9789571430232</p> <p>『新華字典』（商務印書館）ISBN:9787100170932</p> <p>『古代漢語詞典』（商務印書館）ISBN:9787100099806</p> <p>小川環樹『唐詩概説』（岩波書店）ISBN:9784003810910</p> <p>村上哲見『唐詩』（講談社）ISBN:9784061593527</p>											
----- 中国語学中国文学(講読)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(講読)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

詩の本文を正確な発音で読めるように十分練習し、また注解の部分も通読して授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

中国語学中国文学専修の学生は、前期に開講する講読とあわせて4単位を取得しなければならない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	4回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作練習課。授課時將就某一寫作方法先挑選或者節選一篇範文，一邊進行提問，一邊講解難點，分析其寫作特色；然後布置作文作業。作文作業收回批閱后發還，並在課堂上進行講評，分析篇章結構和遣詞造句中存在的問題。希望學生們通過一年的學習，能做到書寫文章大致通順傳情達意基本無礙。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體字，課程說明暫用日文漢字。授課時使用中文簡體字。】</p>											
【到達目標】											
培養學生高級漢語寫作能力。											
【授業計画と内容】											
<p>基本上平均兩週為一單元，讀一篇範文，寫一篇作文。 根據授課的實際情況，内容和進度有可能進行適當調整。此外、課堂上也有隨時的短文写作。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導論 2 記叙文(一) 簡單的記人 3 記叙文(二) 簡單的敘事 4 作文講評 5 說明文(一) 說明事物 6 說明文(二) 解說事理 7 作文講評 8 補充說明 9 應用文(一) 讀後感 10 應用文(二) 觀後感 11 作文講評 12 議論文(一) 立論 13 議論文(二) 駁論 14 作文講評 15 總結 											
【履修要件】											
<p>原則として、中文口語1・中文口語2を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確実であること(新HSK5級程度)。 中国語を母語とする学生は受講できない(以漢語為母語的學生不可選修)。</p>											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）および作文（60％）

[教科書]

適当挑選或者節選一些文体各異的中文文章來作為範文。

[参考書等]

（参考書）

呂叔湘『現代漢語八百詞（増訂本）』（商務印書館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示

（その他（オフィスアワー等））

履修者数上限は8名とし、中国語学中国文学研究室の大学院生を優先する。余裕のある場合のみ、中国語学中国文学研究室の学部学生を受け入れる。初回の授業でレベル確認の試験をおこなう。オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	4回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 2									
【授業の概要・目的】											
本課程為高級漢語寫作練習課。授課時將就某一寫作方法先挑選或者節選一篇範文，一邊進行提問，一邊講解難點，分析其寫作特色；然後布置作文作業。作文作業收回批閱后發還，並在課堂上進行講評，分析篇章結構和遣詞造句中存在的問題。希望學生們通過一年的學習，能做到書寫文章大致通順傳情達意基本無礙。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體字，課程說明暫用日文漢字。授課時使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
培養學生高級漢語寫作能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩週為一單元，讀一篇範文，寫一篇作文。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。此外、課堂上也有隨時的短文写作。											
1 導論 2 記叙文（三） 複雜的記人 3 記叙文（四） 複雜的叙事 4 作文講評 5 説明文（三） 説明事物 6 説明文（四） 解説事理 7 作文講評 8 補充説明 9 議論文（三） 立論 10 議論文（四） 駁論 11 作文講評 12 專業論文（一） 討論語言学問題 13 專業論文（二） 討論文学問題 14 作文講評 15 總結											
【履修要件】											
原則として、中文口語 1・中文口語 2 を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること（新HSK5級程度）。 中国語を母語とする学生は受講できない（以漢語為母語的學生不可選修）。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）および作文（60％）

[教科書]

適当挑選或者節選一些文体各異的中文文章來作為範文。

[参考書等]

（参考書）

呂叔湘『現代漢語八百詞（増訂本）』（商務印書館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示。

（その他（オフィスアワー等））

履修者数上限は8名とし、中国語学中国文学研究室の大学院生を優先する。余裕のある場合のみ、中国語学中国文学研究室の学部学生を受け入れる。初回の授業でレベル確認の試験をおこなう。オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び中国語
題目		中文口語 1									
【授業の概要・目的】											
本課程為文學部本科生高級漢語口語練習課，課堂上全部使用漢語。要求學生們做好充分預習，上課時積極參與解讀和討論，在多種多樣的實際語言情景中練習和掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。希望學生們通過一年的學習，達到能通過新H S K（漢語水平考試）5級的水平。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體，課程說明暫用日文漢字。上課使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩到三週為一單元，圍繞一個主題，互問互答，各抒己見。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。											
1 導論											
2 自我介紹（一） 基本形式											
3 中日見聞（一） 歷史											
4 中日見聞（二） 歷史											
5 中日見聞（三） 當代社会与文化											
6 中日見聞（四） 當代社会与文化											
7 中日見聞（五） 當代社会与文化											
8 中間講評											
9 隨筆（一） 自然											
10 隨筆（二） 自然											
11 隨筆（三） 文学与文人											
12 隨筆（四） 文学与文人											
13 隨筆（五） 語言文化											
14 隨筆（六） 語言文化											
15 總括											
【履修要件】											
出席本課程的學生必須受過兩年以上的正規漢語訓練。 以漢語為母語的學生不可選修。 原則として、中文口語 1・中文口語 2 を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること（新HSK5級程度）。 中国語を母語とする学生は受講できない。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）および課題＋発表（60％）

[教科書]

上課時印發教材。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示

（その他（オフィスアワー等））

文学部3～4回生のみ対象とする。中国語学中国文学専修の学生を優先し、受講者数の上限は8名。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び中国語
題目		中文口語 2									
【授業の概要・目的】											
本課程為文學部本科生高級漢語口語練習課，課堂上全部使用漢語。要求學生們做好充分預習，上課時積極參與解讀和討論，在多種多樣的實際語言情景中練習和掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。希望學生們通過一年的學習，達到能通過新H S K（漢語水平考試）5級的水平。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體，課程說明暫用日文漢字。上課使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩到三週為一單元，圍繞一個主題，互問互答，各抒己見。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。											
1 導論 2 自我介紹（二） 提高形式 3 中日見聞（六） 歷史 4 中日見聞（七） 歷史 5 中日見聞（八） 當代社会与文化 6 中日見聞（九） 當代社会与文化 7 中日見聞（十） 當代社会与文化 8 中間講評 9 隨筆（七） 自然 10 隨筆（八） 自然 11 隨筆（九） 文学与文人 12 隨筆（十） 文学与文人 13 隨筆（十一） 語言文化 14 隨筆（十二） 語言文化 15 總括											
【履修要件】											
出席本課程的學生必須受過兩年以上的正規漢語訓練。 以漢語為母語的學生不可選修。 原則として、中文口語 1・中文口語 2 を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること（新HSK5級程度）。 中国語を母語とする学生は受講できない。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）および課題＋発表（60％）

[教科書]

上課時印發教材。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示

（その他（オフィスアワー等））

文学部3～4回生のみ対象とする。中国語学中国文学専修の学生を優先し、受講者数の上限は8名。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系60

科目ナンバリング		U-LET11 41445 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(卒論演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 准教授 緑川 英樹 文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		中国語学中国文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
卒業論文提出予定者を対象とし、(1)研究題目選択および先行研究の調査方法、(2)論文の組み立てに関する指導をおこなう。あわせて、中国語による論文要旨の書きかたについて指導する。											
【到達目標】											
卒業論文を執筆するにあたって守るべき規範意識を理解したうえで、自主的に課題を設定し、調査研究を経て言語化するための手続きを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>隔週で開講する。前期には、研究したい題目を各自で決めて、おおまかな着想を述べ、指導・助言を受ける。後期には、自らの卒業論文の内容について発表資料を準備して口頭発表をおこなったのち、指導・助言を受ける。</p> <p>後期の担当時には、(1)研究の主要論点・結論および引用原典を挙げた説明資料を配布し、出席者に分かりやすく説明し、それにするものとする。</p> <p>以上とあわせて、中国語による論文要旨の書きかたについての指導をおこなう。</p>											
【履修要件】											
中国語学中国文学専修学部学生に限る。(3回生も出席するのが望ましい。)											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(卒業年度の口頭発表による)											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
卒業論文の題目選択は学生の自主性を重んじるので、取り組むべき課題を発見するにあたっての準備的調査をまず各自でおこなうこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
後期に口頭発表を担当する際には、必ず(1)発表用資料を必要部数準備するとともに、(2)中国語論文要旨の下書きも作っておくこと。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系61

科目ナンバリング		U-LET12 31530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北朝正史の儒林伝を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なっことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度に『魏書』儒林伝を読み始めており、今年度はその途中からになるが、過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も積極的に期待したい。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。 ・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。 ・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。 											
[授業計画と内容]											
<p>原則として講義形式（北朝正史の儒林伝に対する訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する）で進めるが、出席者にも適宜テキストを読解してもらったり、講義の内容にコメントしてもらったりする場面を設ける。</p> <p>1 ガイダンス 2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介 4～15 『魏書』儒林伝精読 （立伝者は計17名、そのうち「常爽」以降の11名を読む） 16～28 『北齊書』儒林伝精読（立伝者は計15名） 29・30 まとめ</p> <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

[教科書]

授業中に指示する
教員作成のプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系62

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 工藤 卓司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦漢政治思想									
【授業の概要・目的】											
秦漢時代の政治思想とはどのようなものであったのか。この授業では、日本の漢学研究にも触れながら、政治的社会的状況との関連から、政治思想上でどのような言説が行われたのかに特に着目して、前漢時代の思想状況を見ていく。											
【到達目標】											
前漢思想についての歴史的理解を深めると共に、様々な状況に置かれた当時の人々の思考を追跡することで、多面的・多角的に「人間」を見る視野を育む。											
【授業計画と内容】											
状況によっては内容には変更の可能性あり。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 導論 2 漢初の社会状況(1) 3 漢初の社会状況(2) 4 漢初の社会状況(3) 5 秦王朝と漢代思想(1) 6 秦王朝と漢代思想(2) 7 秦王朝と漢代思想(3) 8 漢初の思想と諸侯王国問題 9 漢初の思想と匈奴問題 10 漢初の思想と経済問題 11 礼思想の展開(1) 12 礼思想の展開(2) 13 道思想の展開(1) 14 道思想の展開(2) 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)およびレポート(50%)											
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する

[参考書等]

(参考書)

金谷治 『秦漢思想史研究』 (平楽寺書店、1992)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する

(その他(オフィスアワー等))

開講日時は5月初旬にKULASISを通して連絡の予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

(関連URL)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門(資料)(中里見敬氏))

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理 (永田知之))

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために (小島浩之氏))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系64

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。											
第1回 ガイダンス											
第2回 経部・概説											
第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類）											
第4回 経部・四書等（四書類～小学類）											
第5回 史部・概説											
第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類）											
第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類）											
第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類）											
第9回 子部・概説											
第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類）											
第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類）											
第12回 集部・概説											
第13回 集部・各論											
第14回 叢書部											
第15回 まとめ											
フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系65

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（一）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>前期は主に訳経篇に収録された北朝後期から隋代の僧をとりあげ、北周の廢仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A・S A Tなどの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回：『続高僧伝』道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第5回：『続高僧伝』菩提流支・勒那摩提・般若流支</p> <p>第6回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第7回：『続高僧伝』那連提黎耶舍</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

- 第8回：『続高僧伝』講読（2）
第9回：『続高僧伝』闍那崛多
第10回：『続高僧伝』講読（3）
第11回：『続高僧伝』達摩笈多
第12回：『続高僧伝』講読（4）
第13回：『続高僧伝』彦琮
第14回：『続高僧伝』講読（5）
第15回：『続高僧伝』真諦の弟子たち

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けませんが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（二）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の实地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>後期は北朝後期から隋代の義解に優れた高僧をとりあげ、北周の廃仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期の内容を簡単に復習し、後期の内容について説明する。</p> <p>第2回：『続高僧伝』慧光伝</p> <p>第3回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第4回：『続高僧伝』法上傳</p> <p>第5回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第6回：『続高僧伝』靈裕伝</p> <p>第7回：『続高僧伝』講読（3）</p> <p>第8回：『続高僧伝』浄影寺慧遠伝</p> <p>第9回：『続高僧伝』講読（4）</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

- 第10回：『続高僧伝』曇延伝
第11回：『続高僧伝』講読(5)
第12回：『続高僧伝』曇遷伝
第13回：『続高僧伝』講読(6)
第14回：『続高僧伝』天台智顛伝
第15回：『続高僧伝』講読(7)

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点(授業内での発言・発表状況)100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8,9,10』(大東出版社)(書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの)

『大乘仏典 中国・日本篇』(中央公論社)

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し(国訳一切経)などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系67

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の解釈法：インドと中国の両面から理解するために第3年度(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「懺悔」と「悔過」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「鉢」と「應器」のインド語と中国的解釈 第8回： 同上 第9回：仏教漢語「方便」の中国的解釈 第10回：仏教漢語「世俗諦」と「勝義諦」のインド仏教的意味と中国的解釈 第11回： 同上 第12回： 同上 第13回：仏教漢語「南無」と「{口奄}」の意味と中国的解釈 第14回：前期に扱った諸語を整理する 第15回：総括</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回，配布資料を作成し，それに基づいて原文を読み，現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば，授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして，授業で精読する箇所を下読みし，自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の解釈法：インドと中国の両面から理解するために第3年度(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「戒」「律」「戒律」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「現量という複合語の解釈」の解釈法とサンスクリットの複合語を解釈するための中国的表現 第8回： 同上 第9回： 同上 第10回：仏教で用いる音写語記号「引」と「二合」の意味 第11回： 同上 第12回：仏教語「悉達」と「悉達多」の解説法：音写語か意味の訳か 第13回： 同上 第14回：後期に扱った内容を整理する 第15回：前期と後期を通じて総括する</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系69

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		国朝文録精読									
【授業の概要・目的】											
<p>古典文献の講読を通して、漢文読解力を養うと共に、中国文化への理解を深める。そのために『国朝文録』を精読する。授業は、各文章毎に、学生諸氏に訳注を準備してもらい、授業時に参加者全員で内容等について議論検討する、という形式を取る。出典に確実に当たることを重視し、本文の文章や語句などすべての典拠、用例について、もとの書物（紙で出来た書物）を調べる作業を重視する。今年は巻八の論の部分を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>漢文を精読することにより、漢文読解力を養成する。さらに、出典を調べながら漢籍を読むことができるようになる。また、さまざまなジャンルの議論を読むことにより、中国の書物についての幅広い知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要、授業の進め方、訳注の作り方などのガイダンス 2. 李広論 3. 趙充国論 4. 鄧禹論 5. 費イ（衣韋）論 6. 諸葛誕論 7. 伯顔論 8. 恵帝論一 9. 恵帝論二 10. 恵帝論三 11. 成祖論一 12. 成祖論二 13. 成祖論三 14. 成祖論四 15. 南宮書法論 16. 原勢一 17. 原勢二 18. 原勢三 19. 荊州論 20. 大人容物愛物論 21. 尚簡 22. 司馬司士 23. 董江都相論 24. 蕭望之論 25. 宋宏論 26. 陸宣公論 											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

27. 杜佑論
28. 劉彝論
29. 張浚論
30. フィードバック（詳細は授業時に説明する）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。（漢文読解、典拠の調査等を総合的に判断する。訳注作成ならびに毎時間の発表が100%。）

【教科書】

テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
授業時に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

綿密な下調べが必要です。

（その他（オフィスアワー等））

内容の項目に書いたように、典拠や用例については紙のテキストに必ず当たるという作業を重視するので、参加者には毎時間、相当程度の時間にわたる予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系70

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		孫志祖『読書 月坐 録』									
【授業の概要・目的】											
<p>清・孫志祖『読書 月坐 録』を読む。孫志祖が関心を持ったテーマに対し、様々な角度から考察した過程を、『読書 月坐 録』を精読することで追体験してもらう。多彩なテーマの考証を読むことは、古典読解能力を高めるとともに、その考証の手法を学ぶことをも可能にするであろう。また同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に孫志祖を離れてでも、それについて積極的に検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶので、様々な専攻の学生の出席を望む。</p>											
【到達目標】											
中国古典文献を、典拠や用例を調べながら正確に読解し、またそれを自然な日本語訳にする能力を身につける。またそこに披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。なお前年度の続きから読解することになるが、各回が内容として連続するわけではないので、今年度からの出席はもちろん問題ない(むしろ積極的な新規参加を期待する)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 小戴刪大戴 3 八十九十日耄 4 冠母免 5 冠母免 6 稷曰明粢 7 檀弓句読 8 王制 9 社稷之牛角尺 10 逸周書月令 11 是察阿党 12 曾子問脱文 13 櫓巢 14 蕃<彫+鼠> 15 学記句読 16 始駕者 17 孫心 18 狸首 19 大夫士無主 20 大戴礼錯簡 21 四戸八 片+戸+甫 22 四書重文 											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

中国哲学史(演習) (2)

23 孔安国論語注

24 反論語

25 康成解論語

26 論語義疏

27 論語点句 (1)

28 論語点句 (2)

29 三帰

30 管仲非仁

フィードバックの方法は授業時に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

演習は学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系71

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系72

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>前期は先進篇を読むこととする。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
[授業計画と内容]											
<p>『論語義疏』先進篇の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 「子曰先進於禮樂」章 ・第3回 「子曰從我於陳蔡者」章 ・第4回 「德行顔淵」章 ・第5回 「子曰回也非助我者也」「子曰孝哉閔子騫」章 ・第6回 「南容三復白圭」章 ・第7回 「季康子問弟子孰為好學」章 ・第8回 「顔淵死顔路請子之車」章 ・第9回 「顔淵死子曰」章 ・第10回～11回 「顔淵死子哭之慟」章 ・第12回 「季路問事鬼神」章 ・第13回 「閔子侍側」章 ・第14回 「魯人為長府」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
[履修要件]											
中級程度の中国語を修得していること。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』篇を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『 經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。 テクストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書 誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。 後期は子路篇を読むこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
【授業計画と内容】											
<p>『論語義疏』子路篇の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 「子路問政」章 ・第3回 「仲弓為季氏宰」章 ・第4回～6回 「子路曰衛君待子」章 ・第7回～9回 「樊遲請學稼」章 ・第10回 「子曰誦詩三百」「子曰其身正」章 ・第11回～12回 「子曰魯衛之政」「子謂衛公子荊」章 ・第13回 「子適衛，冉有僕」章 ・第14回 「子曰苟有用我者」「子曰善人為邦百年」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
【履修要件】											
中級程度の中国語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系75

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『朱子言論同異攷』講読(前年度から継続)									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮の朱子学者韓元震(1682~1751)の主著『朱子言論同異攷』を読む。同書は「理気」「理」「陰陽」「五行」「天地」等の項目ごとに朱熹の言論の異同を指摘し、その早晩の鑑別や「定論」の判定を企図したものである。授業は輪読形式で行い、担当者が作成した訳注原稿を受講者全員で検討する。受講者には各自、同書所引の朱熹語の原典に当たり、異同の持つ意味を整理した上で、韓元震の所論の是非を批判的に検証することを要求する。</p> <p>テキストはソウル大学校奎章閣蔵『朱子言論同異攷』を使用する(プリント配布)。</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの精読を通して高度の漢文読解・出典調査能力を錬成し、朱子学に対する理解を深め、朝鮮朱子学に関しても一定の知見を得ることに加え、朝鮮学の諸資料や工具書(電子媒体を含む)の利用方法を身につけることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回~第15回 資料講読</p> <p>テキストを順次講読する。進度は1回につき影印本1葉程度を目安とする。必要に応じて講読を休止し、担当教員が内容整理、総括や補足説明を行う場合も有る。 フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

『朱子語類』『朱文公文集』『四書集注』『四書或問』等、朱熹の著作によって『朱子言論同異攷』所引の朱熹語の原典にあたること。また『南塘集』の調査等により、『朱子言論同異攷』における韓元震の主張の背景を検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

この授業は全回オンラインにより実施する。資料の配付方法等については初回授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系76

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『朱子言論同異攷』講読(前年度から継続)									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮の朱子学者韓元震(1682~1751)の主著『朱子言論同異攷』を読む。同書は「理気」「理」「陰陽」「五行」「天地」等の項目ごとに朱熹の言論の異同を指摘し、その早晩の鑑別や「定論」の判定を企図したものである。授業は輪読形式で行い、担当者が作成した訳注原稿を受講者全員で検討する。受講者には各自、同書所引の朱熹語の原典に当たり、異同の持つ意味を整理した上で、韓元震の所論の是非を批判的に検証することを要求する。</p> <p>テキストはソウル大学校奎章閣蔵『朱子言論同異攷』を使用する(プリント配布)。</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの精読を通して高度の漢文読解・出典調査能力を錬成し、朱子学に対する理解を深め、朝鮮朱子学に関しても一定の知見を得ることに加え、朝鮮学の諸資料や工具書(電子媒体を含む)の利用方法を身につけることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回~第15回 資料講読</p> <p>テキストを順次講読する。進度は1回につき影印本1葉程度を目安とする。必要に応じて講読を休止し、担当教員が内容整理、総括や補足説明を行う場合も有る。 フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
-----中国哲学史(演習)(2)へ続く-----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

『朱子語類』『朱文公文集』『四書集注』『四書或問』等、朱熹の著作によって『朱子言論同異攷』所引の朱熹語の原典にあたること。また『南塘集』の調査等により、『朱子言論同異攷』における韓元震の主張の背景を検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

この授業は全回オンラインにより実施する。資料の配付方法等については初回授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 21550 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『文選』の文章を読む(李陵「答蘇武書」)									
[授業の概要・目的]											
<p>漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることを最大の目的とする。最初は漢文とその読み方について概説をし、またテキストとなる『文選』について紹介する。</p> <p>その上で、実際の『文選』収録の文章として、李陵「答蘇武書(蘇武に答ふる書=手紙)」を読解する。その際、『文選』に附された唐の李善による注釈もあわせて読むことで、漢文読解における注釈の意義について考えてもらう。</p> <p>単純に漢文に興味を持つ人もいるであろうし、李陵については、中島敦「李陵」を読んだことがある人もいるかもしれない。この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを重視する。そのため様々な興味関心から、多くの学生の参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>目標は下記の五点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 											
[授業計画と内容]											
<p>最初のうちは講義形式で進め、時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう。</p> <p>李陵「答蘇武書」を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳 3 漢文の読み方：典故について 4 漢文の読み方：注釈について 5 漢文の読み方：注疏について 6 漢文の読み方：対句、文体について 7 『文選』について：成立と受容 8 『文選』について：李善注と五臣注 9 ~ 30 李陵「答蘇武書」の読解と討議 <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 中国哲学史(講読)(2)へ続く -----											

中国哲学史(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

基本的には学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		ジャイナ説話におけるヒンドゥー神話批判									
【授業の概要・目的】											
<p>インド中世にジャイナ教徒は非常に多くの説話文献を残しており、その多くはサンスクリットではなく、中期インド・アーリア語であるマハーラーシュトリーやアプブランシャで著わされている。マハーラーシュトリーで書かれ、ヒンドゥー神話を風刺したDhurtakhyana (『悪党物語』)もその一つである。この作品は5人の悪党の首領たち(一人は女性)が旅の宿りでたまたま一堂に会し、ほらの吹き合いをして夜をすごすという楽しい作品であるが、その中で、さまざまなヒンドゥー神話をほら話として笑い飛ばしている。授業では、まずこの作品に語られるヒンドゥー神話を叙事詩・プラーナ等のヒンドゥー側の文献に伝承されている語りと比較検討したうえで、ジャイナ教徒がヒンドゥー神話をどのように受け止めたのかを考察する。さらに、プラークリット(文学作品に用いられる中期インド・アーリア語)を代表するマハーラーシュトリーの読解力を身につけることをめざす。</p>											
【到達目標】											
マハーラーシュトリーの読解力が身につく、マハーラーシュトリー文学の研究方法を学ぶことができる。また中世のインドにおけるジャイナ教とヒンドゥー教の相互関係を学ぶことができる。											
【授業計画と内容】											
<p>全5章から成る作品のうち、昨年度に第3章前半を精読したので、今回は、第3章全体を復習を兼ねて講読・検討したのち、第4章を精読する。以下の神話の番号はKrümpelmannの翻訳に従う。原文はマハーラーシュトリーで著されているが、Ahmedabad版にはサンスクリットの翻案も含まれているので、そちらを参照することができる。</p> <p>第1回 Dhurtakhyanaの内容概説、Maharastriを読むためのツールの説明 第2回 Elasadhaのほら話(第3章) 第3回 焔焔の反駁(1): 神話17~19 第4回 焔焔の反駁(2): 神話20と21 第5回 焔焔の反駁(3): 神話22 第6回 焔焔の反駁(4): 神話23~26 第7回 焔焔のほら話(第4章) 第8回 Khandapanaの反駁(1): 神話27~29 第9回 Khandapanaの反駁(2): 神話30~32 第10回 Khandapanaの反駁(3): 神話33からKadruとVinataの対立 第11回 Khandapanaの反駁(4): 神話33からGarudaの誕生 第12回 Khandapanaの反駁(5): 神話33からGarudaによるソーマの窃盗 第13回 Khandapanaの反駁(6): 神話33からGarudaと神々の戦い 第14回 Khandapanaの反駁(7): 神話34~36 第15回 全体の総括</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

【履修要件】

基礎的なサンスクリット読解能力

【成績評価の方法・観点】

平常点により評価する。

【教科書】

授業で扱う資料はアップロードし、学期の初めにその情報を告知する。主たる校訂版および翻訳は以下のとおりである。

Haribhadrasuri, Dhurtakhyana. Edited by Jina Vijaya Muni. Singh Jain Series, No.19. Bharatiya Vidya Bhavan, Bombay, 1944. (Reprint: Sarasvati Oriental Research Sanskrit Series No.15, Sarasvati Pustak Bhandar, Ahmedabad, 2002).

Krümpelmann, Kornelius, Das Dhuttakkhana: eine jainistische Satire.

European university studies, Reihe 27, Asiatische und Afrikanische Studien, Bd.74. Peter Lang, 2000.

Haribhadra, Ballade des coquins. Titre original: Dhuttakhana (Dhurtakhyana). Traduction inédite du prakrit, présentation, notes, chronologie et bibliographie par Jean-Pierre Osler et Nalini Balbir. Paris: GF Flammarion, 2004.

【参考書等】

(参考書)

Frank van den Bossche, A reference manual of Middle Prakrit Grammar. The Prakritis of the Dramas and the Jain Texts. Gent, 1999.

その他の文法書や辞書は初回の授業にて説明する。

【授業外学修(予習・復習)等】

第3章については、講師がサンスクリットに移したテキストを提示し、講読する。その間に受講者はマハーラーシュトリーの文法とツールに慣れるように。第4章については、毎回の予習(訳の準備)が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系79

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語	
題目		Manameyodaya and Tarkasamgraha										
【授業の概要・目的】												
<p>How did the systematizers of the realist Mimamsa, Nyaya and Vaisesika schools of philosophy in the seventeenth century approach the inherited ancient philosophical texts of their own school? As newly developed navina- (Neo-) systems, what attitude did they show to the ancient authorities of their own system? To answer these questions we will look at the work of Narayana and Annambhatta, whose work became so popular as to become a standard introductory manuals. We will learn how to read the text with the aim of determining what issues motivated the author to adopt given strategies, and ultimately uncover what problems his systematization was trying to address.</p>												
【到達目標】												
<p>Students will learn how to read and study the epistemological sections of Manameyodaya of Narayana and the Tarkasamgraha of Annambhatta. The aim is to enable students to understand the fundamental principles of sastric debate. This will serve as a basic introduction to the methodology of the new style of philosophy that came to dominate all fields of enquiry. Students will read passages explaining, in simple and clear style, some of the major tenets of the newly Mimamsa and Nyaya-Vaisesika systems and see how they relate to earlier ideas and later developments.</p>												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1: Introduction. Week 2: Prama, Pramana, Prameya and Pramatr. What are the major categories of discourse? Week 3: Perception (pratyaksa), intrinsic and extrinsic validity. Week 4: Testimony (sabda) Week 5: Analogy (upamana) and its object Week 6: Presumption (arthapatti) Week 7: Negation Week 8: Objects of veridical knowledge Week 9: Substance Week 10: Genus Week 11: Quality Week 12: Action Week 13: Non-existence Week 14: Yogic perception Week 15: Concluding discussion.</p>												
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----												

インド古典学(特殊講義)(2)

【履修要件】

Ability to read basic Sanskrit.

【成績評価の方法・観点】

Evaluation is based on regular attendance, participation by asking questions relevant to the readings, and a final essay to be handed in by week 15. The subject of the essay should touch on any aspect of texts we have read and discussed.

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Y. V. Athalye 『The Tarkasamgraha of Annambhatta』 (Bombay. 1897)

S. Kuppaswami Sastri 『A Primer of Indian Logic』 (Kuppaswami Shastri Research Institute. Madras. 1951.)

【授業外学修(予習・復習)等】

Preparatory reading of passages to be read and discussed in class.

(その他(オフィスアワー等))

To be determined.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系80

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to kaavya-"saastra-: Vakroktijiivitam by Kuntaka									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course, we will read and analyse the Vakroktijiivita by Kuntaka (fl. 10th century AD in Kashmir), an influential and yet largely unstudied representative of the Kashmiri alamkaara"saastra-tradition.</p> <p>During the first term, we will concentrate on Kuntaka's examination of the basic concepts of the concerned field, which is found in the first chapter (unme.sa) of his work. Among several discussions of great historical relevance, we will encounter Kuntaka ' s deliberations about the nature and the classification of “ vakrokti ” and “ vakrataa ” , two core concept of the proposed literary theory, and explore his lengthy accounts of such terms as “ maarga- ” and “ gu.na- ” .</p> <p>From the linguistic point of view, the Vakroktijiivita can be read in order to develop one ' s skills in reading both technical (“ saastric) as well as fine (kaavya) literature. The majority of discussed examples are provided with a short commentary, so that the text also provides an opportunity to sharpen one ' s skills in reading Sanskrit commentaries.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> to develop understanding of the literary theory proposed by Kuntaka to develop understanding of the core concepts of the ala.mkaara"saastra to develop skills in reading, understanding and translating "saastric literature in Sanskrit to develop skills in reading and understanding Classical Sanskrit kaavya to develop skills in reading and understanding of Sanskrit commentaries on kaavya to develop skills in reading and interpreting Sanskrit kaavya literature on the basis of its commentaries 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1), during the remaining weeks 2 to 15, we will read, translate and analyse the Vakroktijiivitam by Kuntaka.</p>											
【履修要件】											
<p>This course is primarily directed at students starting from the third year of Sanskrit and above. No prior exposure to Indian literary theories is necessary.</p> <p>Classes will be held in English.</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Preparation of translations of Sanskrit text at home, active participation in the classroom.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

The students will need to prepare English (or any language) translations of Sanskrit texts

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系81

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まる。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論。 第2回 ヤジュルヴェーダ文献についての最新の研究について。 第3回から第15回 マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭についての記述）を読み、言語学および祭式・文化的側面から考察を行う。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット基礎文法の既習者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。											
【教科書】											
教材を授業時に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習を必要とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 福山 泰子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アジャンター石窟研究概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、インド石窟寺院の中でも多くの荘厳な彫刻や絵画、豊富な碑銘資料を残す仏教石窟アジャンターに注目する。講義では、石窟の空間構造、また、碑銘資料から見る寄進の諸相、種々の仏教説話図の図像的特徴、仏陀観の変容等を他地域の作例や経典記述との比較検討を通して考察するほか、アジャンターの歴史的背景を壁画中の諸民族の表現からも探る。加えて、アジャンターの日本近代美術および近代仏教における再評価についても言及する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代インド仏教のあり方を文献資料のみに依拠するのではなく、造形資料を加えて多角的に読み解くことによって、当時の信仰の実態や歴史的背景を理解することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション インド石窟寺院概説 2. アジャンター石窟寺院概観(1) 3. アジャンター石窟寺院概観(2) 4. 碑銘が語る歴史と寄進者の諸相 5. 仏教説話図と経律の比較研究(1) 6. 仏教説話図と経律の比較研究(2) 7. 仏教説話図と経律の比較研究(3) 8. 仏伝「舎衛城の神変」から見る仏陀観の変容 9. 石窟空間と仏伝主題の配置 10. 生死輪廻図の諸相 11. 石窟寺院におけるヤクシャと菩薩の機能 12. 壁画に見る異民族とその役割 13. 壁画に見る古代インドの風俗 建築物・服飾・食 14. 近代におけるアジャンターと日本人の邂逅 15. 総括 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論に対する積極的な参加などによる平常点（50点）、レポート（50点）により評価する。</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業内容に応じて、データを提示する。

[参考書等]

(参考書)

Schlingloff, D. 『Studies in the Ajanta Paintings-Identifications and Interpretations-』 (Ajanta Publications, 1985)

Schlingloff, D and M. Zin 『Ajanta-Handbuch der Malereien』 (Wiesbaden: Harrasowitz Verlag, 2003)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に提示した参考文献で予習し、授業後は講義内容の復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

以下のメールアドレス (yfukuyama@world.ryukoku.ac.jp) までご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系83

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系84

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山畑 倫志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アパブランシャ語とジャイナ教文学：ジャイナ教のラーマ説話とクリシュナ説話									
[授業の概要・目的]											
<p>アパブランシャ語は中期インド語のうち最新層にあたる言語であり、特に9世紀から12世紀にかけて、ジャイナ教文学作品に多く用いられた。ジャイナ教文学には主要なジャンルとして聖者伝文学があるが、その中にはラーマ説話やクリシュナ説話といったヒンドゥー教と共通する説話も多く取り入れられている。しかし、その内容にはジャイナ教独自の要素がしばしば見られる。</p> <p>この授業ではアパブランシャ語の文法とジャイナ教文学を概観した後、実際の作品の講読を行う。講読で扱う文献は初期アパブランシャ語文学の代表的な作品であるスヴァヤンブー（Svayambhu, 9-10世紀）の『パドマの行伝』（Paumacariu）とプシュパダanta（Puspadanta, 10世紀）の『マハープラナーナ』（Mahapurana）である。前者はジャイナ教のラーマ説話、後者はジャイナ教で重視される63偉人全てを扱う作品である。『パドマの行伝』からはジャイナ教ラーマ説話として特徴的な箇所を、『マハープラナーナ』からはクリシュナ説話の箇所をとりあげる。</p> <p>授業の中ではヒンドゥー教のラーマとクリシュナ、そしてジャイナ教徒による他の作品との比較を行いつつ、ジャイナ教がこれらの説話を自身の文学の主要素として取りこんだ経緯や理由についても考察する。</p>											
[到達目標]											
アパブランシャ語の読解力を身につけ、アパブランシャ語によるジャイナ教文学の研究方法を習得する。ジャイナ教文学の主要な類型である聖者伝文学の特徴と、そこにヒンドゥー教と共通する説話を取り入れられた経緯について理解する。											
[授業計画と内容]											
授業計画と内容											
第1回 アパブランシャ語文法の概要と読解のための参考書											
第2回 ジャイナ教とラーマ説話											
第3回 Paumacariu, Sandhi 12.1-6											
第4回 Paumacariu, Sandhi 12.7-12											
第5回 Paumacariu, Sandhi 36.1-6											
第6回 Paumacariu, Sandhi 36.7-13											
第7回 Paumacariu, Sandhi 41.5-11											
第8回 Paumacariu, Sandhi 54.1-7											
第9回 Paumacariu, Sandhi 54.8-14											
第10回 ジャイナ教とクリシュナ説話											
第11回 Mahapurana, Sandhi 88.1-4											
第12回 Mahapurana, Sandhi 88.5-9											
第13回 Mahapurana, Sandhi 88.10-14											
第14回 Mahapurana, Sandhi 88.15-19											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

第15回 Mahapurana, Sandhi 88.20-24

講義日程については、5月初旬にKULASISを通して連絡する。

【履修要件】

基礎的なサンスクリット語の読解能力を要する。アパブランシャ語については授業内で解説するが、マハーラーシュトラ語など他のプラークリット諸語についての知識もあると望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加度を含めた平常点で評価する。

【教科書】

講読箇所はコピー等で配布する。講読するテキストの主な校訂と翻訳を下記に挙げる。

Paumacariu:

Bhayani, H. C., Paumacariu, Bharatiya Jnanapith Publication, Varanasi, 1958-1970.

Nagal, Shantilal, Jain Ramayana-Paumacaryu, B.R. Publishing Corporation, Delhi, 2002.

De Clercq, Eva, Een kritische studie van Svayambhudeva's Paumacariu, Gent, Universiteit Gent, 2003.

De Clercq, Eva, The Life of Padma, Cambridge, Harvard University Press, 2018.

Mahapurana:

Puspadanta, Mahapurana, vol.1-5, Edited by P. L. Vaidya, Translation by Devendra Kumar Jain, New Delhi, Bharatiya Jnanpith Publication, 1979-1999.

【参考書等】

(参考書)

Ganesh Vasudev Tagare 『Historical Grammar of Apabhramsa』 (Motilal Banarsidass, 1987) ISBN: 9788120802902

Kamal Chand Sogani 『Apabhramsa Grammar and Composition』 (Apabhramsa Sahitya Academy, 2005)

Eva De Clercq 『The Apabhramsa of Svayambhudeva's Paumacariu』 (Hindi Granth Karyalay, 2010) ISBN:9788188769469

他に参照する辞書や文法書は授業内で提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習として各回に講読する箇所の訳を準備する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21643 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to the Paninian System of Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>The purpose of this class is to provide an introduction to the Paninian system of Sanskrit grammar, at least a basic understanding of which is an indispensable tool for the study of almost any genre of Sanskrit literature. On the one hand, the course participants will be introduced to the basic principles and workings of the Astadhyayi and, on the other hand, they will encounter several advanced topics pertaining to the exegesis and the application of individual rules of grammar.</p> <p>After a series of introductory lectures, the course participants will be guided along the text of a selected section of the Astadhyayi. Occasionally, we will make use of different commentaries on the text so as to gain a deeper understanding of the actual rules and of the hermeneutic strategies developed by the Paninian tradition.</p> <p>(Note that the course is designed in such a way as to allow repeated participation for those who have already attended the same class in the previous year(s).)</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to study the basic technical vocabulary, derivational and semantic principles, as well as the organisation of Panini's Grammar - to study various parts of Panini's Grammar - to provide basic tools for an easy access to Panini's rules of grammar - to develop a deeper understanding of Sanskrit grammar and syntax 											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1-2: General Introduction to the Ashtadhyayi (Aa.s.taadhyayii)</p> <p>Week 3-15: Study of selected sections from the Astadhyayi and related literature</p>											
【履修要件】											
<p>Basic knowledge of Sanskrit. Classes will be held in English. Note that the course is designed in such a way as to allow repeated participation for those who have already attended the same class in the previous year(s).</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom based on the review of the studied material.

[教科書]

授業中に指示する
Instructed during class.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
To be announced.

[授業外学修(予習・復習)等]

To be announced.

(その他(オフィスアワー等))

To be announced.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		プラーナ文献とダルマニバンダ文献									
【授業の概要・目的】											
<p>プラーナ文献は、布施や聖地巡礼などの広義の「ダルマ」を主題として扱う部分を含んでおり、こうした箇所はしばしば12世紀以降に成立したダルマニバンダというジャンルの文献の中に、法典やマハーバーラタと並んで引用される。このことは、プラーナ文献が、ダルマ、特に宗教的な実践に関して権威ある文献とみなされていたことを示している。ダルマニバンダ文献は、作者と成立年代・地域がほぼ確定できるため、こうした引用は、プラーナ文献の成立と伝承を研究するためには最も信用できる資料である。この授業では、初期のプラーナの一つである『スカンダプラーナ』の中で、まとめてダルマニバンダ文献に引用されている箇所を取り上げ、スカンダプラーナの諸写本の読みと複数のダルマニバンダ文献における引用とを比較検討することで、ダルマニバンダ文献における引用の性格、ダルマニバンダ文献相互間の関係、さらに『スカンダプラーナ』の伝承過程について考察する。</p>											
【到達目標】											
プラーナ文献とダルマニバンダ文献の特徴、社会文化的役割と研究方法を学ぶことができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ダルマニバンダ文献、特に初期の文献におけるプラーナ文献の引用 第2回 『スカンダプラーナ』の成立と伝承、3つのRecensionの関係 第3～7回 布施とヴラタ：Skandapurana 111 & 112 第8～9回 木を養子にする儀礼：Skandapurana 158 & 162 第10～11回 秋の満月祭 (Kaumudimahotsava)：Skandapurana 75 & 76 第12～15回 Varanasiの聖地の記述：Skandapurana 29</p>											
【履修要件】											
基礎的なサンスクリットの読解能力											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と期末レポート（50点）											
【教科書】											
授業で扱うスカンダプラーナの章については、ダルマニバンダ文献における引用を含む校訂テキストを初回の授業で提供する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各回で扱うテキストには、引用と比較しながら、必ず事前に目を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		Nyayasiddhantamuktavali on inference										
【授業の概要・目的】												
We will read the sections of the 17th century Nyayasiddhantamuktavali of Visvanatha with excerpts from the Dinakari and Ramarudri commentaries. The purpose of this class is to become familiar with the language and style of the modern Nyaya school by reading one of the most popular primers. The focus will be on learning the technical terminology and the basic method of analysis by looking at the definitions of the valid means to cognition and related topics.												
【到達目標】												
Students will learn how to read the later forms Sastric Sanskrit and discuss the prerequisites expected from the intended reader. At first students will focus on learning the fundamentals of the new style of navyanyaya analysis. Then students will learn how definitions can be made more precise by studying the newly introduced typology of qualifiers such as avacchedaka, visesana, visesya, prakara etc. The final goal is for students to become able to successfully analyze the basic definitions of the valid means of cognition.												
【授業計画と内容】												
Week 1-2: The history of Inferential Pervasion (vyapti). Weeks 3-8: The definitions of vyapti in the Nyayasiddhantamuktavali. Weeks 9-14: Analysis of definitions. Week 15: Summary and conclusion.												
【履修要件】												
Ability to read basic Sanskrit.												
【成績評価の方法・観点】												
Evaluation is based on regular attendance, participation in class discussions and by asking relevant questions. A short essay touching on any issue in the texts we have read and discussed is to be submitted by week 15.												
【教科書】												
授業中に指示する												
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----												

インド古典学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Begin by reading:

Wada, Toshihiro, 1989: "Indo-shin-ronrigaku ni okeru seigensha (avacchedaka) (1)" (Delimiter (avacchhedaka) in Navya-Nyaya (1)), Tokai-Bukkyo 34: 79-88.

The Karikavali of Vishwanath Panchanana Bhatta with the Commentary Siddhanta-Muktavali. Edited with notes by Mahadev Gangadhar Bakre. Bombay: Nirnayasagara Press, 1906.

Karikavali-Muktavali. Edited with the Dinakri of Dinakara and the Ramarudri of Ramarudra by Harirama Sukla. Kashi Sanskrit Series 6. Varanasi: Chowkhamba Sanskrit Series Office, 1951.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す（Jaatakathavannanaa（ジャータカ（本生譚）注釈））に収録されている比較的短い動物寓話を読む予定）。</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について（言語的特徴などについて概説） ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説（物語の内容、関連テキストなど） <p>第2回－5回：テキスト講読（Sumsumaraajaataka ワ二本生）</p> <p>第6回－9回：テキスト講読（Kacchapajaataka カメ本生）</p> <p>第10回－14回：テキスト講読（Bakajaataka 青サギ本生）</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[履修要件]

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

[成績評価の方法・観点]

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系90

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、プラークリット(中期インド語)の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読みながら、プラークリットになれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディーで書かれたテキストを読むことで、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつプラークリットの特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使うようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2 回目: 母音と子音の音韻変化 3 回目: 名詞変化 4 回目: 代名詞の変化 5 回目: a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6 回目: 過去自制、分詞etc. 7回目～10回目: 日常的に唱えられる定型句をまとめた『アーバッサヤ』第1章と、五大誓戒を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』4章の散文部分 11回目～14回目: 出家者にとっての禁止行為を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』3章 15回目: 14回までで残っている課題を含めた全体のまとめ</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点: 授業内での発言(和訳等含む)											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系91

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。											
【到達目標】											
最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まる。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭に関する記述）の原典講読を行う。参加者が事前に準備した訳を発表し、言語学および祭式・文化的側面から考察を行う。											
【履修要件】											
サンスクリット基礎文法の既習者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。											
【教科書】											
教材を授業時に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習を必要とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系92

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子	文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev	文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系93

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		横地 優子 VASUDEVA, Somdev	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
[授業の概要・目的]											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
[到達目標]											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
[授業計画と内容]											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
[履修要件]											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 特になし。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系94

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 教科書のうち、「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパーデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～14回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は毎回2頁程度の進度で読み進める予定である。フィードバックの方法は授業中に指示する。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験によって評価する。											
【教科書】											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banardidass) ISBN:978-81-208-1362-2(インド学研究室にて購入できる。)											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分できなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリ文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましいが、どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系95

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])									
[授業の概要・目的]											
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。											
[到達目標]											
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学び、どの時代の、どのジャンルのサンスクリット文献にも対応できる読解力の基礎を身につける。特に、語形等に独特の特徴を持つ初期サンスクリット語(ヴェーダ語)をも読解できる力を身につける。											
[授業計画と内容]											
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに記載されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表するが、それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。											
第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、マイトラーヤニー・サンヒター、シャタパタ・ブラーフマナ)。											
[履修要件]											
サンスクリット文法既習者。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。											
[教科書]											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2(インド学研究室にて購入できる。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の予習・復習が必須である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系96

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系97

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・チベット学・仏教学フランス語文献の講読									
[授業の概要・目的]											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた「La civilisation tibétaine」の様々な箇所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
[到達目標]											
印度古典学・チベット学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 第2－15回 テキストの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎授業の前、講読する箇所の予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳および英訳し発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。											
【到達目標】											
このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。											
【授業計画と内容】											
以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。											
前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)											
後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)											
授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系99

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the language. The main focus is laid upon learning the foundations of grammar, developing a basic vocabulary, and acquiring skills in understanding of Sanskrit texts.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi) - to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit - to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit - to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit 											
【授業計画と内容】											
<p>We will largely follow the plan laid out in M. Deshpande ' s manual “ Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer ” .</p> <p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). We will spend the main bulk of this time (ca. 25 weeks) on the study and practice of Sanskrit grammar. During the final ca. five weeks of the course we will turn to reading of simple Sanskrit texts.</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, biweekly homework.											
【教科書】											
<p>M. Deshpande 『 Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer 』 (The University of Michigan Press) ISBN: 9780891480792</p> <p>E.D. Perry 『 A Sanskrit Primer 』 (Nabu Press 2011) ISBN:178794733</p>											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

Arthur A. MacDonell 『A Sanskrit Grammar for Students』 (OUP, 1971)

[授業外学修(予習・復習)等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English and translations from English into Sanskrit. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two hours per class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系100

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1．導入【1週】											
2．文字と発音【4週】											
3．文法と会話【9週】											
4．中間試験【1週】											
5．中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6．文法と会話【8週】											
7．文法と絵本・新聞講読【6週】											
8．期末試験【1週】											
9．期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と筆記試験（期末30、年度末40）によって評価する。

[教科書]

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

[参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系101

科目ナンバリング		U-LET49 29659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか 第6～10週目：インド神話関連の物語 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可） 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- ヒンディー語(中級)I(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）I(2)

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta（インドのヒンディー語新聞）)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times（インドのヒンディー語新聞）)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）)
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系102

科目ナンバリング		U-LET49 29660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマーヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可） 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語(中級)II(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）II(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系103

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系104

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。初回から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の解釈法：インドと中国の両面から理解するために第3年度(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「懺悔」と「悔過」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「鉢」と「應器」のインド語と中国的解釈 第8回： 同上 第9回：仏教漢語「方便」の中国的解釈 第10回：仏教漢語「世俗諦」と「勝義諦」のインド仏教的意味と中国的解釈 第11回： 同上 第12回： 同上 第13回：仏教漢語「南無」と「{口奄}」の意味と中国的解釈 第14回：前期に扱った諸語を整理する 第15回：総括</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の解釈法：インドと中国の両面から理解するために第3年度(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合 わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展 開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を 理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。											
あわせて以下3点を習得する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「戒」「律」「戒律」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「現量という複合語の解釈」の解釈法とサンスクリットの複合語を解釈するた めの中国的表現 第8回： 同上 第9回： 同上 第10回：仏教で用いる音写語記号「引」と「二合」の意味 第11回： 同上 第12回：仏教語「悉達」と「悉達多」の解説法：音写語か意味の訳か 第13回： 同上 第14回：後期に扱った内容を整理する 第15回：前期と後期を通じて総括する											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回，配布資料を作成し，それに基づいて原文を読み，現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば，授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして，授業で精読する箇所を下読みし，自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』におけるブツダ所説の伝承(ア ガマ)についての解説の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ゴータマ・ブツダは、紀元前500年～300年頃の或る時期、ガンジス川の中流域を活動の中心地として、80年の生涯を送った人物であるが、東アジアに広まる仏教の創始者となる。20代の終わり頃、ブツダは覚醒体験を経て、その数ヶ月後、自覚内容を言葉化したとき、有情/衆生の存在の中核には「苦」があること(「苦諦」)を宣言した。この真理内容は、「四諦」「五蘊」「縁起」の所説として今に伝わる。このブツダの所説を伝える伝承(ア ガマ)が、古典インド文化圏における大乘仏教の二潮流の一つ、瑜伽行派の根本論書である『瑜伽師地論』の中において、どのような言葉として伝わり(パ リに伝承される文言との比較吟味を行い)、また、解説(ヴィバンガ)が行われるのか、サンスクリットで(現存する写本から知られる限りの)当該論書に伝わるアーガマ伝承を主たる検証の対象とし、7世紀の漢訳(玄奘訳)や9世紀のチベット訳を参照しながら精査・考察する。</p>											
【到達目標】											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、『瑜伽師地論』の概説から始め、ブツダの言葉の伝承(アーガマ)についての基本的知識の確認を行い、『瑜伽師地論』「撰異門分」に伝わるアーガマ、並びに、その中の(ブツダの)用語に対する解説について、注目すべき用語(例えば、「四念処」など)を取り上げ、文献学的な分析を行う。</p> <p>第1回 1. 『瑜伽師地論』の概説 第2回 2. ブツダ所説の伝承(アーガマ)、特に、パーリ「大念処経」の所説について 第3回 (1) パーリ・ニカーヤと漢訳・阿含について 第4回 (2) 『瑜伽師地論』「撰異門分」に伝わるアーガマについて 第5回～第15回 サンスクリット・テキストの講読 第5回から第15回は、『瑜伽師地論』のサンスクリット・テキストと(可能な限り、写本を参照する予定であるが、「撰異門分」はサンスクリットの断片しか伝わらないため)、パーリやチベット訳・漢訳との比較吟味を行いながら、『瑜伽師地論』に伝わるブツダの所説を伝える個々のアーガマを精読し、分析を行う。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点。
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。
テキスト解説に対するサンスクリット読解力の程度をもって評価します。

[教科書]

授業中に指示する
テキストは、適宜、コピー配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』におけるブッダ固有の「大悲」についての解説の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>前期授業で扱ったテキスト箇所 of 解説内容との吟味を行いつつ、継続して、当該テキストを精読する。併せて、ブッダは瞑想実践中に一切世界の有情ノ衆生を個々に見定めたとき、悲しみ(カルナー)の極みに至り、あらゆる生き物が苦しみから脱(のが)れてあれかしとの思願を發する。後に、「大悲」(マハーカルナー)という用語で語り継がれて、大乘仏教徒たちの理想像である「菩薩」の思願と重ね合わされるようになる。この「大悲」について、大乘の初期經典やアビダルマの諸論書、並びに、瑜伽行派と中觀派の諸論書における捉え方を比較しながら、思索を深めて行く。</p> <p>なお、学位論文の作成を目指している受講者の希望に応じて、その研究対象テキストを精読することも考える。</p>											
【到達目標】											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、ブッダ瞑想中の悲しみの思願、そして、「大悲」についての經典伝承や、大乘經、並びに、仏教諸論書での「大悲」の捉え方の概要を講義し、次いで、テキストの精読へと進む。</p> <p>第1回 「大悲」についての概説、特に、パーリに伝わる「梵天勸請」について</p> <p>第2回 (1) パーリ・ニカーヤに伝わる「悲しみ」の思願と、アビダルマの教義解釈</p> <p>第3回 (2) 大乘の初期經典における「大悲」の捉え方</p> <p>第4回 (3) 大乘の諸論書における「大悲」の捉え方</p> <p>第5回～第15回 サンスクリット・テキストの講読</p> <p>第5回から第15回は、『阿毘達磨俱舍論』における基本的な「大悲」についての教義解釈を確認する。その上で、「大悲」を謳う大乘經(『八千頌般若經』『無量壽經』『十地經』など)、並びに、大乘の諸論書(『プラサンナパダー』など)のサンスクリット・テキストを精読して行く。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点。</p> <p>各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。</p> <p>テキスト解説に対するサンスクリット読解力の程度をもって評価します。</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
テキストは、適宜、コピー配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (I)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系110

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（一）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。本年度は主に訳経篇に収録された北朝後期から隋代の僧をとりあげ、北周の廢仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A・S A Tなどの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回：『続高僧伝』道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第5回：『続高僧伝』菩提流支・勒那摩提・般若流支</p> <p>第6回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第7回：『続高僧伝』那連提黎耶舍</p> <p>第8回：『続高僧伝』講読（2）</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

- 第9回：『続高僧伝』闍那崛多
第10回：『続高僧伝』講読(3)
第11回：『続高僧伝』達摩笈多
第12回：『続高僧伝』講読(4)
第13回：『続高僧伝』彦琮
第14回：『続高僧伝』講読(5)
第15回：『続高僧伝』真諦の弟子たち

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点(授業内での発言・発表状況)100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8,9,10』(大東出版社)(書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの)
『大乘仏典 中国・日本篇』(中央公論社)(『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載)
『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』(大蔵出版)(巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの)
その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し(国訳一切経)などを調べておく。
復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（二）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>後期は北朝後期から隋代の義解に優れた高僧をとりあげ、北周の廃仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期の内容を簡単に復習し、後期の内容について説明する。</p> <p>第2回：『続高僧伝』慧光伝</p> <p>第3回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第4回：『続高僧伝』法上傳</p> <p>第5回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第6回：『続高僧伝』靈裕伝</p> <p>第7回：『続高僧伝』講読（3）</p> <p>第8回：『続高僧伝』浄影寺慧遠伝</p> <p>第9回：『続高僧伝』講読（4）</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

- 第10回：『続高僧伝』曇延伝
第11回：『続高僧伝』講読（5）
第12回：『続高僧伝』曇遷伝
第13回：『続高僧伝』講読（6）
第14回：『続高僧伝』天台智顛伝
第15回：『続高僧伝』講読（7）

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系113

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド後期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
一切法の空を主張する中観派には、その極端に見える主張のために初期から批判があったが、インド後期中観派の時期にはどのような問題設定や批判があり、中観派はそれにどう答えたのであろうか。本演習では、11世紀頃に活躍したプラジュニャーカラマティ著『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」を取り上げ、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『入菩提行論』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。第15回の授業にはフィードバックを行う。 フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系114

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド後期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
一切法の空を主張する中観派には、その極端に見える主張のために初期から批判があったが、インド後期中観派の時期にはどのような問題設定や批判があり、中観派はそれにどう答えたのであろうか。本演習では、11世紀頃に活躍したプラジュニャーカーマティ著『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」を取り上げ、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『入菩提行論』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系115

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梵文仏典写本研究のための基礎知識									
[授業の概要・目的]											
インド本土において衰退した大乘仏教を研究するために現在われわれの手元に残されているのは、インド周辺諸国において翻訳という形で伝承された仏典翻訳文献と、写本として伝来されている梵文原典とである。このうち写本資料は仏典原典の言語をダイレクトに今に伝える貴重な資料であり、近年その研究が飛躍的に進んでいる。授業では梵文仏典写本研究の現状と課題について理解し、写本を実際に読解しながら、文字解読をはじめとする基礎的な能力の養成を目的とする。											
[到達目標]											
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。											
[授業計画と内容]											
冒頭数回の授業では、インドに由来する梵文仏典写本研究の現状について、特に、ネパール・チベット伝来の写本を中心に概観する。さらに写本読解のための基礎知識を養うために、従来刊行されてきた写本の文字表や、梵文写本独特の綴り字法などについて説明する。また、写本の所有者にまつわる逸話を紹介し、来歴と伝承過程について補足する。これらの基礎知識を習得した後は、実際に写本の読解に入る。素材としては、未読の断片写本をサンプルとして用いる。特に、写本の読みに問題がある場合の対処法と有効な手続きについて詳しく論じる。授業は演習形式とするが初心者も歓迎する。											
第一～三回 歴史的背景の概説と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教のこころ観 : 存在論的視点から (インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>仏滅後100年頃に、仏教教団は保守的な上座部と革新的な大衆部とに分裂したとされる。それからさらに18とも20ともいわれる様々な学派が生じるにいたった。上座部系の主要な勢力の1つに説一切有部が存在する。チベット仏教文化圏においては、説一切有部、経量部、瑜伽行唯識学派、中観派をインド仏教の四大学派とみなし、説一切有部の代表的作品をヴァスバンドゥ著 Abhidharmakosa (俱舍論) とみなしている。Abhidharmakosaは、真諦や玄奘により漢訳され、7世紀には日本に伝わり俱舍宗が形成され、近代にいたるまで伝統仏教各派により基礎教学として広く学習された。したがって、Abhidharmakosaは、インドから東北アジア、東アジアに広く影響を与えた著作であるといえよう。</p> <p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。同章では、人間存在の構成要素である五蘊、さらには認識の構成要素である十二処、十八界といった、仏教の基礎的な理論が説明される。同章を精読することで、とりわけ仏教の伝統的な「こころ観」について概観し理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>初回はAbhidharmakosaのイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。適宜、仏教の宗義書も精読し比較考察する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
【教科書】											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教のこころ観 : 存在論的視点から(インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>仏滅後100年頃に、仏教教団は保守的な上座部と革新的な大衆部とに分裂したとされる。それからさらに18とも20ともいわれる様々な学派が生じるにいたった。上座部系の主要な勢力の1つに説一切有部が存在する。チベット仏教文化圏においては、説一切有部、経量部、瑜伽行唯識学派、中観派をインド仏教の四大学派とみなし、説一切有部の代表的作品をヴァスバンドゥ著 Abhidharmakosa (俱舍論) とみなしている。Abhidharmakosaは、真諦や玄奘により漢訳され、7世紀には日本に伝わり俱舍宗が形成され、近代にいたるまで伝統仏教各派により基礎教学として広く学習された。したがって、Abhidharmakosaは、インドから東北アジア、東アジアに広く影響を与えた著作であるといえよう。</p> <p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)ならびに第二章(根品)、およびその自注を精読する。同章では、人間存在の構成要素である五蘊、さらには認識の構成要素である十二処、十八界といった、仏教の基礎的な範疇論が説明される。同章を精読することで、とりわけ仏教の伝統的な「こころ観」について概観し理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
初回～第15回で、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。適宜、仏教の宗義書も精読し比較考察する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
【教科書】											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36											
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		宗教情報センター 京都支社 研究員				佐藤 直実	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		大乘仏教經典の読解											
【授業の概要・目的】													
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第4章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と並び、東西他土仏の双璧をなす。最も古い他土仏の一人であり、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、この阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章ある『阿しゆく仏国經』の中から、妙喜世界の菩薩の様子を描く第4章をとりあげ、その修行のあり方や特徴を解読・解説する。</p> <p>妙喜世界の菩薩は、「如来の集団」「金剛不壊の集団」「如来の蔵に入る者」「無畏の城に入る者」と言われ、声聞・縁覚よりもはるかに優れていると説かれる。法を受持するには、自力と仏力の両者によらなければならないとも記され、この世の菩薩のあり方とは異なる記述が見られる。</p> <p>漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても外観したい。</p>													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> 1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成 2) 大乘仏教の基礎知識の習得 3) 仏教文献学の研究手法の習得 													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第4章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>													
【履修要件】													
わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。													
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----													

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。
テストは行わない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成（Tattvasamgraha）』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注（Tattvasamgrahapanjika）』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章（特に第8章「存続する存在の考察」）の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学（特に刹那滅論と因果論）についての概説 第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説 第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説（受講生による輪読形式） 第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

[教科書]

授業中に指示する
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・ テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す（Jaatakathavannanaa（ジャータカ（本生譚）注釈））に収録されている比較的短い動物寓話を読む予定）。</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について（言語的特徴などについて概説） ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説（物語の内容、関連テキストなど） <p>第2回－5回：テキスト講読（Sumsumaraajaataka ワ二本生）</p> <p>第6回－9回：テキスト講読（Kacchapajaataka カメ本生）</p> <p>第10回－14回：テキスト講読（Bakajaataka 青サギ本生）</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、プラークリット(中期インド語)の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読みながら、プラークリットになれる。											
【到達目標】											
アルダマーガディーで書かれたテキストを読むことで、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつプラークリットの特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使うようになる。											
【授業計画と内容】											
1 回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2 回目:母音と子音の音韻変化 3 回目:名詞変化 4 回目:代名詞の変化 5 回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6 回目:過去自制、分詞etc. 7回目~10回目:日常的に唱えられる定型句をまとめた『アーバッサヤ』第1章と、五大誓戒を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』4章の散文部分 11回目~14回目:出家者にとっての禁止行為を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』3章 15回目:14回までで残っている課題を含めた全体のまとめ											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系122

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系123

科目ナンバリング		U-LET14 31853 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・チベット学・仏教学フランス語文献の講読									
【授業の概要・目的】											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた『La civilisation tibétaine』の様々な個所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
【到達目標】											
印度古典学・チベット学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 第2－15回 テキストの講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎授業の前、講読する箇所の予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳し、発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET49 29628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4週） 3. 名詞（4週） 4. 形容詞（1週） 5. 助動詞（3週） 6. まとめ（1週） 7. フィードバック（1週） 											
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語(初級)(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語(初級)に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞(5週) 2. 複文他(5週) 3. チベット語テキスト演習(4週) 4. フィードバック(1週) <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語(初級)を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は、学期末に行う試験(100%)によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>											
チベット語(初級)(語学)(2)へ続く											

チベット語（初級）(語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献 2. サンスクリット経典からの翻訳文献 3. サンスクリット注釈からの翻訳文献 											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）（語学） Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. サンスクリット論書からの翻訳文献 2. サンスクリット注釈からの翻訳文献 3. チベット撰述古典チベット語文献 											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語（中級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
チベット語（中級）（語学）(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。